

令和 8 年 度
一 般 社 団 法 人 京 都 府 薬 剤 師 会
病 院 診 療 所 薬 剤 師 部 会 総 会

日 時 : 令和 8 年 5 月 1 7 日 (日) 1 4 時 ~ 1 6 時 1 5 分

場 所 : 京都府薬剤師会館 大ホール

令和8年度 一般社団法人 京都府薬剤師会
病院診療所薬剤師部会 総会

日 時：令和8年5月17日（日）14時～16時15分

場 所：京都府薬剤師会館 大ホール

次 第

司 会 評議員 林 明仁

総 会 14：00～16：15

1. 開会の辞 部会長 三浦 誠

2. 議長選出

3. 議 事

I. 報告事項

日本病院薬剤師会 第72回臨時総会 …………… 資料1

日本病院薬剤師会 令和7年度 医療政策部セミナー

令和8年度薬剤師臨床研修事業について …………… 資料2

日本病院薬剤師会 求人・求職システムについて …………… 資料3

薬剤業務向上加算の現状

令和7年度 部会、各WG事業報告 …………… 資料4

II. 協議事項

令和8年度 部会事業計画・予算（案） …………… 資料5

III. 京病薬【功労賞・優秀学術論文賞・学術奨励賞・病院薬学賞】表彰授与式

IV. その他

4. 閉会の辞 副部会長 友金 幹視

資料 1 日本病院薬剤師会 第 72 回臨時総会

第72回臨時総会 資料 目次

令和8年度

一般社団法人日本病院薬剤師会事業計画（案）

（令和8年4月1日～令和9年3月31日）

一. 協議事項

（第1号）令和8年度事業計画（案）	P 1
（第2号）令和8年度予算（案）	P 7
（第3号）定款細則の改正	P 10
（第4号）交付金規程の改正	P 14

二. 報告事項

（第1号）令和8年度診療報酬改定について	P 15
（第2号）病院薬剤師確保の取り組みについて	P 60
（第3号）病院薬剤師の労働条件調査について	P 73
（第4号）令和7年度病院薬剤師部門の現状調査の集計結果	P 78
（第5号）薬剤師臨床研修の効果的な実施のための調査検討事業	P119
（第6号）各都道府県病院薬剤師会の地域連携の取り組み	P122
（第7号）HIV感染症専門薬剤師部門の日本エイズ学会との共同運営について	P129
（第8号）日本病院薬剤師会70周年記念事業 「2040年へ向けて病院薬剤師のあり方を会員と共に考える」	P130

三. ブロック代表質問（5地区）

P131

本会は、病院、診療所、介護保険施設に籍を有する薬剤師の倫理及び学術水準を高め、質の高い薬物療法の確保を図ることにより、国民の健康及び福祉の増進に寄与することを目的とし、その実現のため毎年度事業計画を立て実施している。

令和8年度は第8次医療計画も3年目に入り中間見直しの時期となる。次の3年目に向けて薬剤師の確保や偏在対策が引き続き進められるよう対応しなければならない。また、新たな地域医療構想の策定・取組も開始され、地域の医療提供体制全体の方向性、将来の病床数の必要量の推計等を検討・策定される予定である。令和8年度診療報酬改定では、賃上げや業務効率化・負担軽減等の業務改善による医療従事者の人材確保に向けた見直しが行われており、その動向を注視していかなければならない。

また、医薬品の供給体制については、出荷調整、出荷停止及び回収等のサプライチェーンの問題が引き続いて発生している。長期化する医薬品の供給問題への対応にご尽力いただいていることに関して、会員の皆様に感謝を申し上げる。

本会が創立80周年に向けて掲げたミッション・ビジョンに基づき、「資質の向上（創薬モダリティ多様性対応・薬物治療管理の充実）」、「職能の拡大（タスク・シェアリング／タスク・シフティング・チーム医療・地域連携）」、「薬剤師の充足（機能別充足・地域偏在の解消）」を3本の柱とし、医療の質の向上とチーム医療への貢献を果たすべく取り組みを進めることとする。

薬剤師には薬の専門職としての資質向上のためのたゆまぬ研鑽が求められている。本会が掲げる活動の3本柱の一つである「資質の向上」を実現するため、薬物療法をとりまく最新の知見を幅広く習得するための生涯研修の充実に努めなければならない。これを支援する観点から、今後も引き続き日病薬病院薬学認定薬剤師制度と専門薬剤師制度改革、卒後臨床研修の創設に向けた取り組みを進めていく必要がある。

さらに、本会のもう一つの柱である「職能の拡大」の観点から、施設の地域性・規模・機能に関わらず、病棟薬剤業務実施加算算定施設割合についてこれからの10年間で50%以上とすることを目標として、病棟薬剤業務のより一層の充実を図り、医薬品の適正使用の推進、積極的な処方提案、タスク・シェアリング／タスク・シフティングの推進、医療DXへの対応に取り組むなど、薬物治療管理の質向上および地域を通じたシームレスな薬物治療管理の実現を目指す。

しかし、薬剤師の不足及び偏在問題は深刻で、本会が掲げる3本目の柱である「薬剤師の充足」の実現は急務である。地域によっては恒常的に人材確保が困難な状況にあり、新たな業務展開のみならず基本業務の遂行にも支障をきたしている状況にある。2040年の医療環境を見据えつつ厚生労働省が策定した薬剤師確保計画ガイドラインを参考に、地域医療介護総合確保基金の活用、薬剤師修学資金貸与事業、

薬剤師派遣を行うための経費等の活用及び学生への薬学部地域枠の広報等の取り組みを推進し、処遇改善・就労環境改善を図る必要がある。

これらの課題に対処するため、令和8年度は創立80周年に向けての最初の年度として以下に掲げる事項について取り組むこととする。

1. 医療の質の向上への貢献

薬剤師は、薬の専門職として薬物療法の提供に責任をもち、チーム医療の一員として患者に寄り添い、最適な薬物療法を提供することにより、医療の質の向上に資するための業務展開を図る。

- (1) 病棟業務（薬剤管理指導および病棟薬剤業務等）の充実を図り、患者に寄り添う医療の提供体制の確保を図る。
- (2) 多様化する外来患者および地域医療連携に対応するため、外来業務の充実を図る。
- (3) 高齢者をはじめ、小児期、思春期、青年期、妊娠・授乳期、壮年期等、個々の患者に対する最適な処方設計支援・提案等を充実する。
- (4) 各施設の医療機能に対応した業務展開のため、薬剤師業務の改善を図る。
- (5) 医療DXを利用した薬剤師業務の実践と課題について検討するとともに、会員への周知・啓発を図る。

2. 医療安全対策の推進

安心・安全で質の高い医療提供のため、医薬品の適正使用の実践と医療安全の更なる推進を図る。

- (1) 医薬品の適正使用に関する最新の情報の管理、提供体制を充実することにより、各施設における効果的な安全対策を推進し、重篤な副作用、薬害の防止を図る。
- (2) 医薬品リスク管理計画（RMP）の利活用により医薬品の安全性の確保を図る。
- (3) ハイリスク薬に対して適切な薬学的管理を推進する。
- (4) 未承認新規医薬品等を用いる場合に、適正な医療を確保するために必要な体制の整備・充実を図る。
- (5) プレアボイド活動の充実を図る。
- (6) 医療安全に関する講習会を開催する。
- (7) ICTの利活用を通じて医療安全の向上及び業務の効率化を図る。

3. 地域医療連携の推進

医療機能の分化・地域完結型医療への移行により、シームレスな薬物治療管理の実現が不可欠であることから、その推進および具体化を図る。

- (1) 医薬品の適正使用に必要な医療情報等を、医療機関、介護保険施設、地域包

括支援センター等に対し、薬剤管理サマリー等により伝達する。

- (2) かかりつけ薬剤師・薬局等、特に、入院時や在宅医療において他の医療提供施設と連携して対応できる薬局（地域連携薬局）、がん等の専門的な薬学管理に他の医療提供施設と連携して対応できる薬局（専門医療機関連携薬局）と病院との連携体制を構築する。
- (3) 薬剤管理サマリー等を活用して薬剤師間での薬剤情報の連携を図り、ポリファーマシー対策を推進する。
- (4) 地域薬剤師会、医師会等、他団体との連携を図る。
- (5) 電子処方箋、電子お薬手帳等デジタル化された情報を利用して医療機関・薬局等との情報の共有活用を推進する。

4. 病院・診療所および介護保険施設等の薬剤師業務の実践

先進的な業務の実践例を提示し、研修会を実施する等、薬剤師に求められている多様な業務を推進する。

- (1) 病棟等における薬学的管理、薬物療法に関する説明、医師への処方提案等の処方支援及び糖尿病患者等における自己注射や自己血糖測定等の実技指導等を推進する。
- (2) 業務効率の改善に向けた取り組みを推進する。
- (3) タスク・シェアリング/タスク・シフティングの様々な好事例を提示し、各医療機関の実状を考慮した業務の充実を図る。
- (4) プロトコールに基づく薬物治療管理（Protocol Based Pharmacotherapy Management: PBP）の積極的な実施を推進する。
- (5) 周術期の薬学的管理の充実を図る。
- (6) 救急外来の薬学的管理の充実を図る。
- (7) 退院患者への薬剤管理指導の実施率の向上を図る。
- (8) 薬学的管理・指導を充実し、高齢者をはじめとし不適切な多剤投与を減らす等、薬剤師の責務として適正な薬物治療の実施を推進する。
- (9) 入院時における持参薬の確認および適切な評価の充実を図る。
- (10) 注射剤調剤業務、特に薬剤師による抗がん薬の無菌調製の完全実施を図る。
- (11) 後発医薬品・バイオ後続品の適正使用を推進する。
- (12) 医薬品等の包装へのバーコードの表示に対する対応を推進する。
- (13) 夜間・休日における業務体制の確立を図る。
- (14) 薬剤耐性（AMR）対策も含めた感染対策への積極的な参加を推進する。
- (15) 放射性医薬品の管理、調製への積極的な参加を推進する。

5. 日本病院薬剤師会の組織体制の強化

地域偏在への対応や会員へのサービス等の向上のため、現状を評価し検討を行う。

- (1) 第8次医療計画に基づき地域偏在の解消に向けて、病院薬剤師の人員不足に

対する対策を厚生労働省、文部科学省及び病院団体等と連携して対応する。

- (2) 地域医療介護総合確保基金を活用した病院薬剤師確保策を作成する。
- (3) 病院薬剤師増加・会員増加のため、都道府県病院薬剤師会の活動を支援すると共に連携を強化する。
- (4) 病院薬剤師の待遇改善に向けた対応を推進する。
- (5) 病院薬剤師等の多様な働き方を検討し、充実を図る。
- (6) 薬剤師確保、離職防止対策の好事例を収集し、会員に共有する。
- (7) 健全な財政基盤を堅持すると共に、中長期的な財政状況の把握と見直しについて検討する。
- (8) 会員不在の医療機関、介護保険施設に入会を働きかけ、会員の増加を図る。
- (9) 日本病院薬剤師会の運営にあたり、次世代を担う人材の発掘と育成を行う。
- (10) 拡大する薬剤師業務に対応した日病薬の組織、事務局体制の強化と運営の改善を図る。
- (11) 会員管理システムの稼働による都道府県病薬の要望に対応する管理体制を整える。
- (12) 特定募集情報等提供事業者として求人・求職者に情報を提供するとともに、就職セミナー・病院見学・その他薬学生向けの情報の掲示板を運用する。

6. 生涯研修制度の実施及び卒後臨床研修の構築

生涯研修は、薬の専門職である薬剤師の責務の一つであり、また、今後の薬剤師キャリアパスを見据え、卒後臨床研修を含めた薬剤師の資質向上を支援する制度の構築を行う。

- (1) 日病薬病院薬学認定薬剤師制度の運用と実施体制の強化に取り組む。
- (2) 質の高い各種研修会・セミナー等を開催する。
- (3) e-ラーニングシステムを活用した生涯研修を推進し、地域差の解消に努める。
- (4) Web を利用した研修会の実施を推進する。
- (5) 新人研修会及び管理者養成のための研修会を行う。
- (6) 卒後臨床研修の創設に向けたモデル事業を行う。
- (7) 日本薬学会、日本医療薬学会、日本薬剤師会等の学会・関連団体並びに薬学部・薬科大学との連携を強化する。

7. 認定薬剤師・専門薬剤師の認定事業の実施

医療の高度化・多様化に対応できる専門性の高い薬剤師を育成する。

- (1) 専門薬剤師及び認定薬剤師養成のための研修事業を実施する。
- (2) がん薬物療法専門薬剤師、感染制御専門薬剤師、精神科専門薬剤師、妊婦・授乳婦専門薬剤師及び HIV 感染症専門薬剤師の認定を行う。
- (3) がん薬物療法認定薬剤師、感染制御認定薬剤師、精神科薬物療法認定薬剤師、妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師及び HIV 感染症薬物療法認定薬剤師の認定を

行う。

- (4) Web を利用した研修会の実施を推進する。
- (5) 医療で求められる薬剤師の新たな専門領域について検討を進める。
- (6) 専門薬剤師の制度設計のあり方について、他団体や学会との協議を含め検討を行う。

8. 薬剤師養成のための薬学教育への協力

大学と協力し資質の高い後進の育成を図る。

- (1) 改訂薬学教育モデル・コア・カリキュラムに則った均質で質の高い実務実習ができるよう、多施設実習等の体制の強化を図る。
- (2) 地域医療や様々な機能の医療機関を理解するために、ふるさと実習及びグループ実習を推進する。
- (3) 日病薬認定指導薬剤師の認定を行う。
- (4) 薬学実践実習の実施について検討する。

9. 薬剤部門の現状調査の実施および今後の業務展開の方向性の検討

薬剤部門の現状を把握し、薬剤師の職能を広く広報するための基礎データとして、また、将来の方向性を検討するため定期的に業務調査を行う。

- (1) 薬剤部門に関する調査を行い、病院・診療所等における薬剤師業務の現状把握・分析・評価を行う。
- (2) 薬剤師の今後の業務展開の方向性、将来ビジョンを検討・作成する。
- (3) 薬剤師以外の者の業務に関する指導、教育体制について検討する。
- (4) 調査結果をもとに、薬剤師業務のエビデンスを構築するとともに、令和10年度診療報酬改定に向けて、要望事項を検討する。
- (5) 本調査の回収率を上げるための方策を講じる。

10. 臨床研究の推進

薬剤師業務の質の向上等の科学的な基盤を得るため臨床研究を奨励・推進する。

- (1) 薬剤師の業務改革・評価に繋がる臨床研究の実施を奨励・推進し、エビデンスを収集する。
- (2) 上記に関わる研究課題を公募し、成果の発表並びに論文化を推進する。
- (3) 会員の各種学会への積極的な参加と発表を奨励・推進する。

11. 会員への情報提供および啓発事業の充実

様々な情報を会員に速やかに提供する。また、その方法について検討する。

- (1) 正確で質の高い情報をホームページに掲載する等、会員に必要な情報伝達に

第8次医療計画・薬剤師確保制度に関するアンケート調査

令和8年2月28日

回答都道府県数 47

ついて効率的な運用に取り組む。

- (2) 日病薬誌の内容の充実と読みやすくするための工夫を図る。
- (3) 日病薬誌を電子媒体で公開する。
- (4) 業務等に有用な出版物の発行を推進する。
- (5) 日本病院薬剤師会 Future Pharmacist Forum を開催し、日病薬の事業内容等について会員に情報提供を行う。

12. 社会への広報活動の推進

広報活動を充実して薬剤師の一層の見える化を図る。

- (1) 国民に薬剤師の活動・職能が理解されるように広報活動を行う。
- (2) 施設紹介のホームページを充実させ、薬学生や未就労者に向けた広報活動を積極的に行い、薬剤師の地域偏在の解消を図る。
- (3) 都道府県病院薬剤師会が開催するお薬相談会等を支援する。

13. 災害への対策・対応

災害発生時に適切に対応できる支援体制を構築する。

- (1) 災害対策に関する規程及び手引きを継続的に改訂し整備する。
- (2) 都道府県病院薬剤師会・関連団体との連携を強化する。
- (3) 人材育成の目標を定めるとともに、必要な研修を実施する。

14. 国際交流事業の強化

諸外国の薬剤師を巡る環境を理解し情報を共有するため、グローバル化を奨励・推進する。

- (1) 国際薬剤師・薬学連合 (International Pharmaceutical Federation : FIP) の組織運営に関わるとともに、世界の薬剤師・薬学関連組織と情報共有を図る。
また、諸外国の薬剤師や関連団体との交流を推進する。
- (2) 米国病院薬剤師会 (American Society of Health-System Pharmacists : ASHP) 主催学会における会員の研究成果発表を支援し、海外研修派遣事業あるいは国際協力事業への研修協力を行う。
- (3) FIP、ASHP 及び FAPA 等が開催する国際的学術大会の情報を会員に周知し、積極的な参加を奨励する。
- (4) 連携協定を締結した韓国、タイ王国との学術交流のための意見交換を行う。

15. その他

- (1) 日病薬賠償責任保険制度を運用する。

A. 都道府県の薬剤師確保計画

設問1.

都道府県の薬剤師確保計画がありますか。

選択肢	回答数
1.ある	46
2.ない	1
* 1.の場合 薬剤師確保計画が、都道府県のWebサイトに掲載されている場合は、URLも記載してください。	

設問2.

薬剤師確保計画がある場合、薬剤師確保計画に、薬剤師確保指標に基づく薬剤師確保の方針がありましたか。

選択肢	回答数
1.ある	40
2.ない	6

設問3.

薬剤師確保計画がある場合、薬剤師確保計画に、病院薬剤師数に関する数値目標はありますか。

選択肢	回答数
1.ある	25
2.ない	21
* 1.の場合 具体的な数値を記載してください。	

設問4.

薬剤師確保計画に、薬剤師確保策として以下の施策がありましたか。

地域医療介護総合確保基金の活用	
選択肢	回答数
1.病院・薬局における薬剤師の採用にかかるウェブ サイト、就職説明会等を通じた情報提供の支援	26
2.地域出身薬剤師や地域で修学する薬学生へのア プローチ	18
3.薬学部における地域枠、地域出身者枠の設定	5
4.潜在薬剤師の復帰支援	14
5.キャリアプランの実現・やりがいを感じられる業務 実現のための支援	10
6.給与制度の見直しに向けた支援	3
7.病院や薬局における働き方の見直しの支援	2
8.病院・薬局における業務効率化の支援 (調剤機器の導入等)	1
9.その他	16

上記以外

選択肢	回答数
1.病院・薬局における薬剤師の採用にかかるウェブ サイト、就職説明会等を通じた情報提供の支援	13
2.地域出身薬剤師や地域で修学する薬学生へのア プローチ	6
3.薬学部における地域枠、地域出身者枠の設定	5
4.潜在薬剤師の復帰支援	6
5.キャリアプランの実現・やりがいを感じられる業務 実現のための支援	2
6.給与制度の見直しに向けた支援	1
7.病院や薬局における働き方の見直しの支援	2
8.病院・薬局における業務効率化の支援 (調剤機器の導入等)	3
9.その他	6

B. 病院薬剤師確保（派遣、奨学金・返還助成等）制度の実施状況調査

設問1.

都道府県病院薬剤師会で、薬剤師確保（派遣、奨学金・返還助成等）をするための委員会等を設置されましたか、または予定はありますか。

選択肢	回答数
1.設置済	26
2.設置予定	5
3.ない	13
4.未定	3
1.設置済の場合は、具体的な内容を右枠にご記載下さい。	

設問2.

病院薬剤師確保の手引きを利用されましたか。

選択肢	回答数
1.利用した	37
2.利用していない	10
* 1.の場合はその内容をご記載下さい。	
1.前回と同様。	34
2.(1以外の場合)	3

C. 令和6年度診療報酬改定関連の実施状況調査

設問1.

都道府県内施設(金員施設)で薬剤業務向上加算を算定している施設がありますか。

選択肢	回答数
1.すでに算定している	24
一算定している施設は、別紙「薬剤業務向上加算の算定施設(55施設)」を参照。	
2.今後予定している	12
3.その予定はない	8
4.把握していない	3

設問2.

都道府県病院薬剤師会が、出向先施設の選定に関わっていますか。

選択肢	回答数
1.関わっている	16
2.今後、関わる予定	10
3.関わっていない	21

設問3.

薬剤業務向上加算において、都道府県との協議について困っていることがありますか。

選択肢	回答数
1.ある	11
2.ない	30
3.把握していない	6
* 1.の場合はその内容を右枠にご記載下さい。	

設問4.

研修体制の構築等で困っていることがありますか。

選択肢	回答数
1.ある	11
2.ない	21
3.把握していない	15
* 1.の場合はその内容をご記載下さい。	

設問5.

薬剤師の出向制度を進めるにあたり、課題となっている点にチェックを入れ、その他は、右枠にご記入下さい。

選択肢	回答数
1.出向先の医療機関の選定	26
2.出向元、出向先病院のマッチング	22
3.出向先のニーズとのギャップ	18
4.都道府県の関与	14
5.出向元における人員不足	32
6.出向者の人選	21
7.出向者の給与、待遇、就業条件等の調整	27
8.その他	3

D-1. 第8次医療計画の中間見直しに向けた進捗状況調査

設問1.

第8次医療計画の中間見直しに向けて、病院薬剤師に関する事項で、都道府県等から打診や協議の場がありますか。

選択肢	回答数
1.ある	15
2.ない	15
3.今後、予定されている	8
4.把握していない	7
5.その他	2
* 1.の場合は具体的な内容を右枠にご記載下さい。	
* 5.の場合はその内容を右枠にご記載下さい。	

設問2.

第8次医療計画の中間見直しに向けて薬剤師確保等に関して都道府県（業務主管課・医療政策課）との会議等がありますか。

選択肢	回答数
1.ある	12
2.ない	15
3.今後、予定されている	11
4.把握していない	7
5.その他	1
* 1.の場合は具体的な内容を右枠にご記載下さい。	
* 5.の場合はその内容を右枠にご記載下さい。	

設問3.

今後の第8次医療計画の中間見直しの審議などをするための協議会等に都道府県病業として参加する予定がありますか。

1.ある	15
2.ない	11
3.未定	20

設問5.

第8次医療計画における薬剤師確保計画について、進まない要因がありますか。

選択肢	回答数
1.ある	24
2.ない	11
3.把握していない	10
*1.の場合は 具体的な内容を右枠にご記載下さい。	

設問6.

高齢化等の地域医療ニーズの変化により、都道府県として取り組む病院薬剤師確保対策の必要性は以前より（3年前と比較して）変化がありますか。

選択肢	回答数
1.増えている	29
2.変わらない	17
3.減っている	1

不明のための未回答

E. 都道府県の病院薬剤師確保の取り組み

設問1.

令和6年度に、都道府県で、上記の第8次医療計画・薬剤師確保計画に関わらず、薬剤師確保（派遣、奨学金、返還助成等）の取り組みが行われましたか。

選択肢	回答数
1.あった 一設問2へ	32
2.なかった	15
3.未定	0
4.その他	0
*4.の場合は 具体的な内容を右枠にご記載下さい。	

設問2.

1. あったとした場合の、具体的な内容

選択肢	回答数
1.派遣	8
2.奨学金・返還助成	13
3.就労支援	1
4.その他	11

F. 就職セミナー等

設問1.

都道府県病院薬剤師会で、就職セミナー等を開催されましたか、またはその予定はありますか。

選択肢	回答数
1. 就職セミナーを開催した	22
2. 大学や、就職情報サイト等の主催するセミナーに参加した	8
3. その他1, 2以外で協力した	7
4. 特にしていない	9

設問2.

今後、仮に本会が、就職セミナーを企画する場合に、都道府県病院薬剤師会として参加する予定がありますか。

選択肢	回答数
1. ある	22
2. ない	0
3. 未定	25

設問3.

都道府県病院薬剤師会のWEBサイトに、就職に関するページはありますか、または予定はありますか。

選択肢	回答数
1. ある	37
2. 今後予定している	1
3. ない	8
4. その他	1

1.ある場合は、掲載内容を右枠にご記載下さい。

選択肢	回答数
1.求人情報	36
2.求職情報	5
3.インターンシップ	7
4.施設見学	12
5.就職セミナーの案内	8
6.その他	5

令和8年2月28日

第5回医療計画・薬剤師確保手引きアンケート結果(速報値)(R8年2月現在)

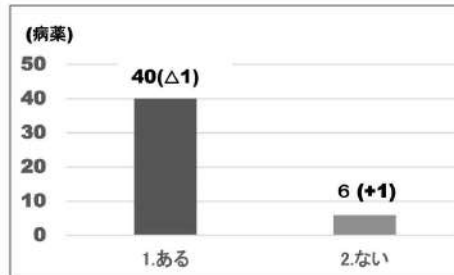
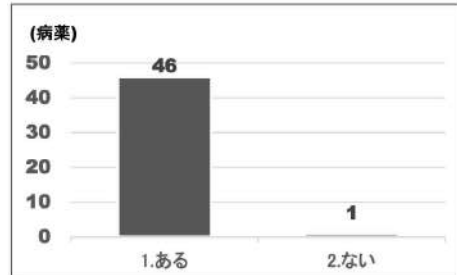
組織強化推進部

○令和8年1月にアンケートを実施。()は対前年度比較。

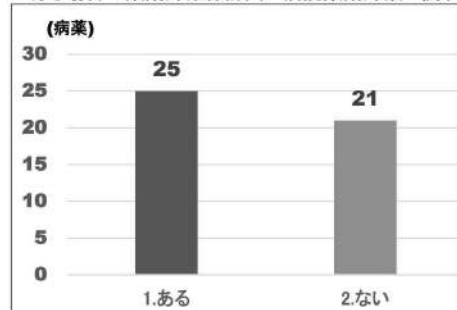
A 都道府県の薬剤師確保計画

1.都道府県の薬剤師確保計画がありますか。(n=47)

2.ある場合の薬剤師確保計画に薬剤師偏在指標に基づく薬剤師確保の方針(n=46)

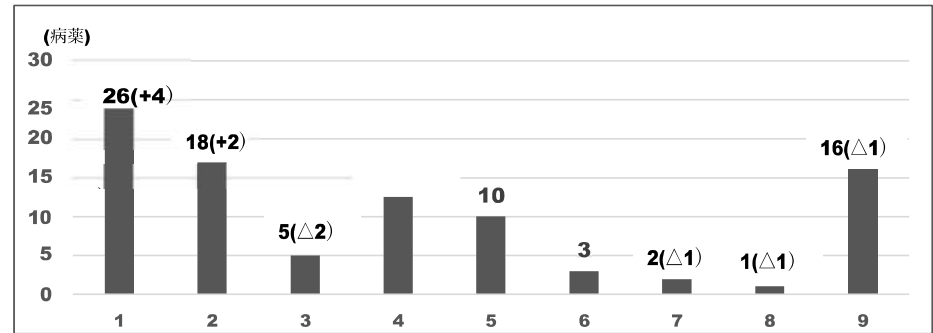


3.ある場合の薬剤師確保計画に病院薬剤師数に関する数値目標(n=46)



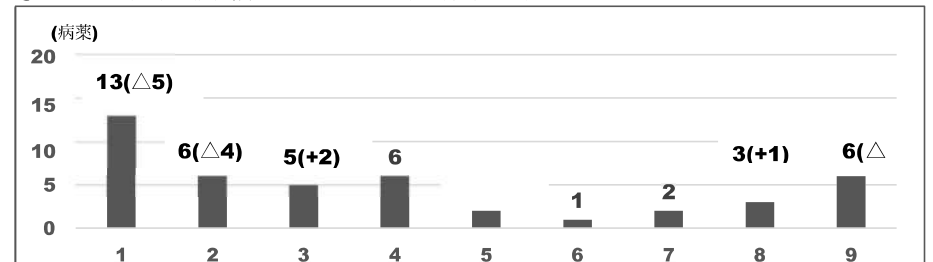
4. 薬剤師確保計画に、薬剤師確保策として以下の施策がありましたか。

① 地域医療介護総合確保基金の活用(複数回答)



- 1.病院・薬局における薬剤師の採用にかかるウェブサイト、就職説明会等を通じた情報提供の支援
- 2.地域出身薬剤師や地域で修学する薬学生へのアプローチ
- 3.薬学部における地域枠、地域出身者枠の設定
- 4.潜在薬剤師の復帰支援
- 5.キャリアプランの実現・やりがいを感じられる業務実現のための支援
- 6.給与制度の見直しに向けた支援
- 7.病院や薬局における働き方の見直しの支援
- 8.病院・薬局における業務効率化の支援 (調剤機器の導入等)
- 9.その他

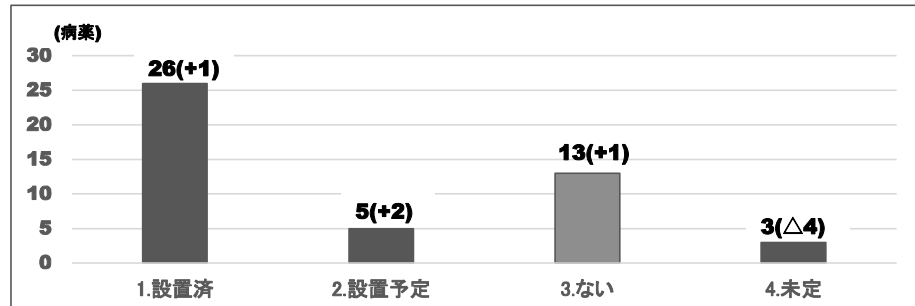
②上記以外(地域医療介護総合確保基金以外)(複数回答)



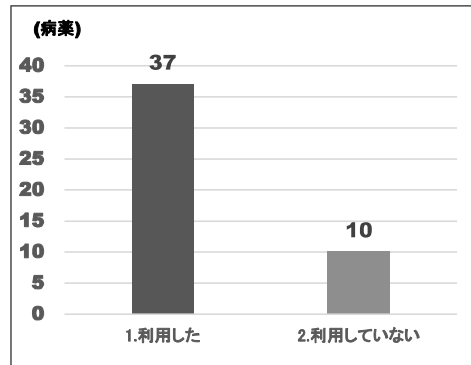
- 1.病院・薬局における薬剤師の採用にかかるウェブサイト、就職説明会等を通じた情報提供の支援
- 2.地域出身薬剤師や地域で修学する薬学生へのアプローチ
- 3.薬学部における地域枠、地域出身者枠の設定
- 4.潜在薬剤師の復帰支援
- 5.キャリアプランの実現・やりがいを感じられる業務実現のための支援
- 6.給与制度の見直しに向けた支援
- 7.病院や薬局における働き方の見直しの支援
- 8.病院・薬局における業務効率化の支援 (調剤機器の導入等)
- 9.その他

B. 病院薬剤師確保(派遣、奨学金・返還助成等)制度の実施状況調査

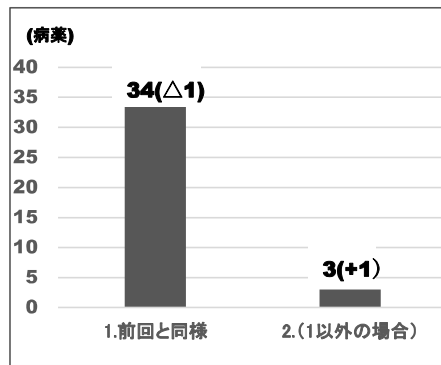
1. 薬剤師確保(派遣、奨学金・返還助成等)の委員会等(n=47)



2. 病院薬剤師確保の手引き(n=47)

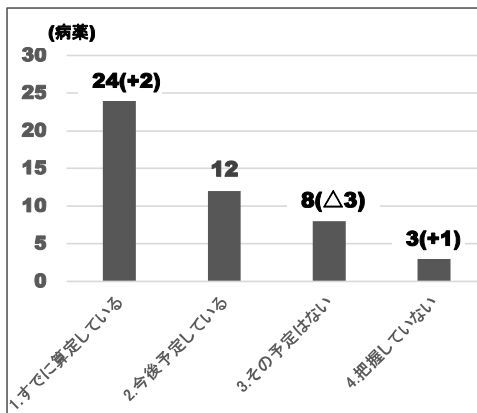


1の場合の状況(n=37)

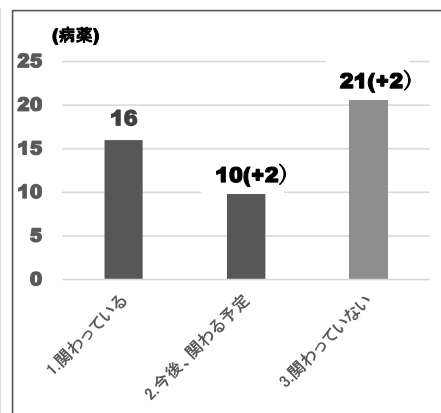


C. 令和6年度診療報酬改定関連の実施状況調査

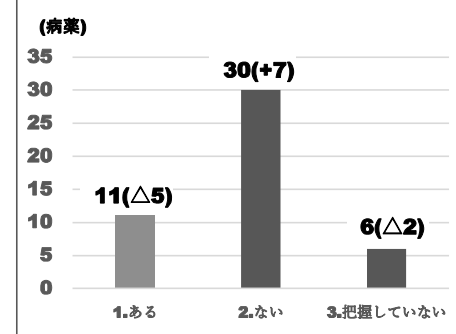
1. 薬剤業務向上加算算定施設の有無(n=47)



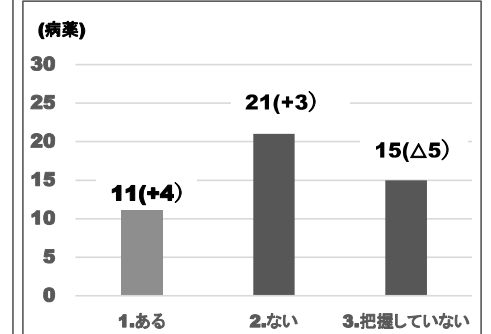
2. 都道府県病薬の出向先施設の選定への関与(n=47)



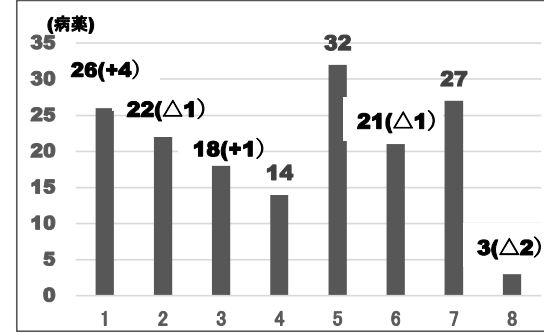
3. 薬剤業務向上加算において、都道府県との協議で困っていること(n=47)



4. 研修体制の構築等で困っていること(n=47)



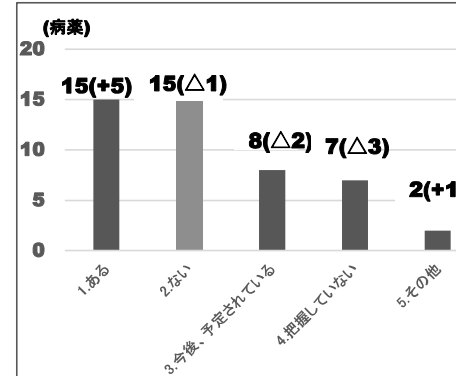
5. 出向制度を進めるに当たり、課題になっている事項(複数回答)



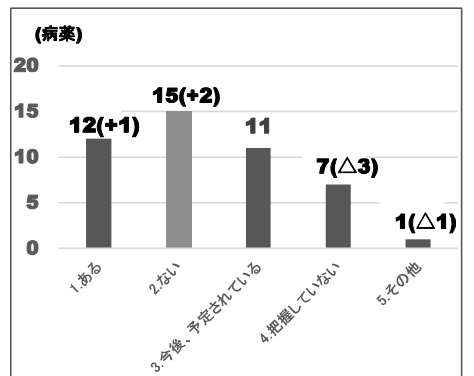
1. 出向先の医療機関の選定
2. 出向元、出向先病院のマッチング
3. 出向先のニーズとのギャップ
4. 都道府県の関与
5. 出向元における人員不足
6. 出向者の人選
7. 出向者の給与、待遇、就業条件等の調整
8. その他

D-1. 第8次医療計画の中間見直しに向けた進捗状況

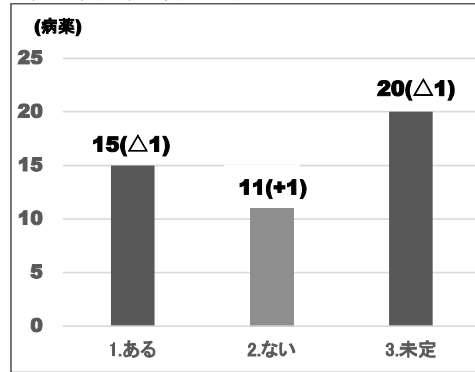
1. 第8次医療計画の中間見直しに向けて、病院薬剤師に関する事項で、都道府県等から打診や協議の場がありますか。(n=47)



2. 第8次医療計画の中間見直しに向けて薬剤師確保等に関して都道府県(業務主管課・医療政策課)との会議等がありますか。(n=46)



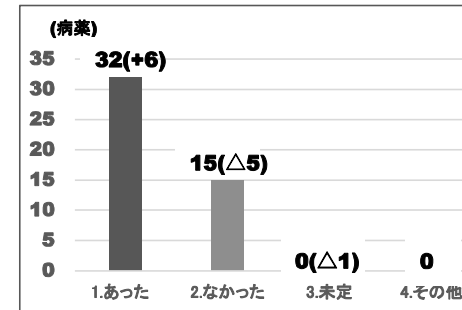
3. 今後の第8次医療計画の中間見直しの審議などをするための協議会等に都道府県病薬として参加する予定がありますか。(n=46)



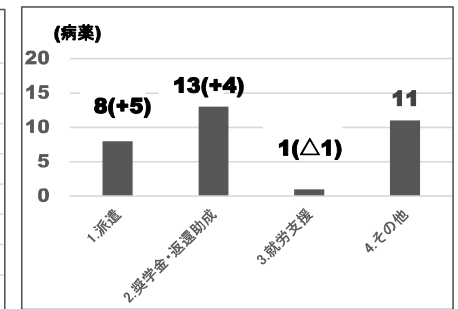
4.省略

E. 都道府県の病院薬剤師確保の取り組み

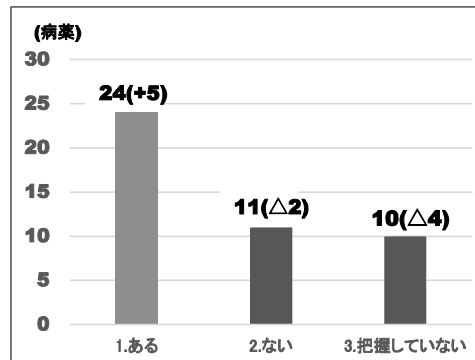
1. 令和6年度に、都道府県で、上記の第8次医療計画・薬剤師確保計画に関わらず、薬剤師確保(派遣、奨学金、返還助成等)の取り組みが行われましたか。(n=47)



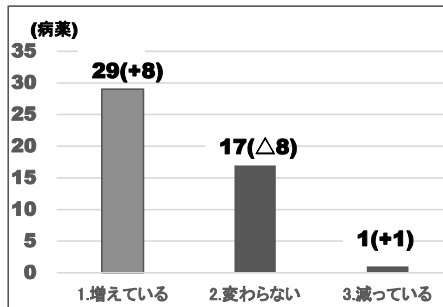
2. あったとした場合の、具体的な内容(n=33)



5. 第8次医療計画における薬剤師確保計画について、進まない要因がありますか。(n=45)

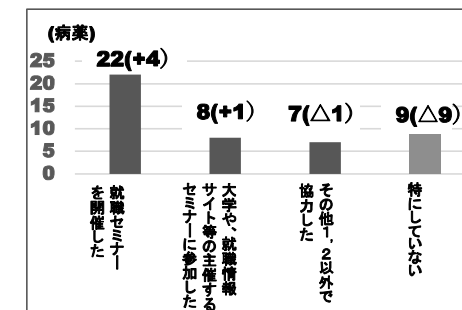


6.高齢化等の地域医療ニーズの変化により、都道府県として取り組む病院薬剤師確保対策の必要性は以前より(3年前と比較して)変化がありますか。(n=47)

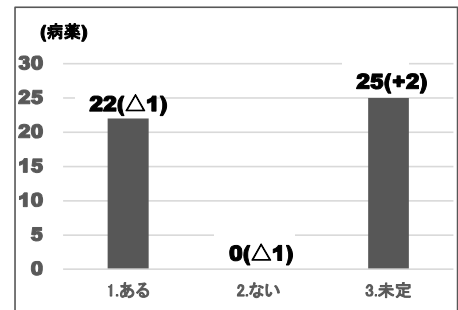


F. 就職セミナー等

1. 都道府県病院薬剤師会で、就職セミナー等を開催されましたか、またはその予定はありますか。(n=46)

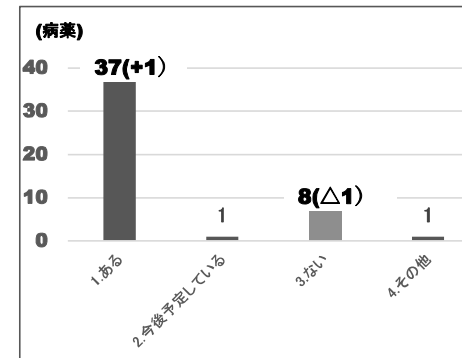


2. 今後、仮に本会が、就職セミナーを企画する場合に、都道府県病院薬剤師会として参加する予定がありますか。(n=47)

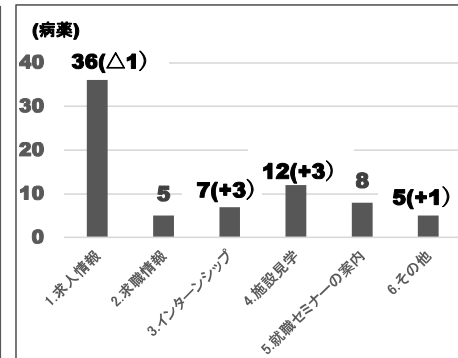


D—2.省略

3. 都道府県病院薬剤師会のWEBサイトに、就職に関するページはありますか、または予定はありますか。(n=47)



① ある場合は、掲載内容をご記載下さい。(複数回答)



令和8年2月11日(水)
組織強化推進部

給与・労働条件等の調査結果(速報値)

1.目的

処遇改善等を要望する際の根拠とする参考資料とするため。

2.方法

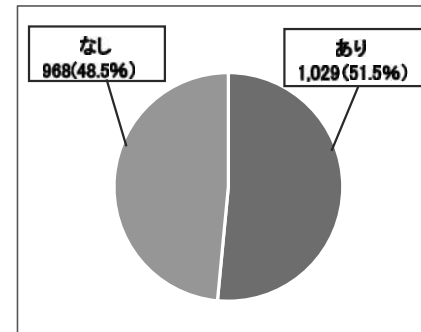
- 令和7年11月中旬～令和8年1月5日に全国の医療機関の薬剤部門へのアンケート調査。
オンラインでの回答。
- 給与関係(薬剤部門または人事部門)と労働条件(薬剤部門)に分けて実施。

3.結果

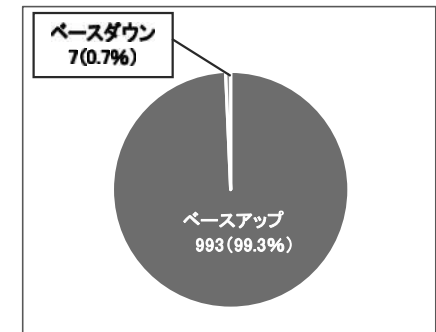
8,040施設にアンケート依頼状を送付して、給与関係は2,114施設(回答率:26.3%)、労働条件は1,963(回答率:24.4%)から回答があった。「延回答施設:2,197(△28)」

病床数	20～49	50～99	100～199	200～299	300～499	500以上	総計
施設数	134	348	747	308	438	222	2,197
(対前回)	(17)	(△7)	(21)	(5)	(△46)	(△18)	(△28)
割合	6.1%	15.8%	34.0%	14.0%	20.0%	10.1%	100%

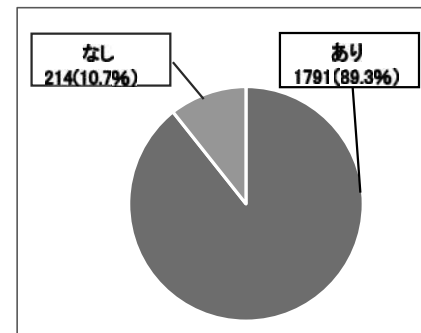
1. 給与改定(俸給表の改訂)(n=1,997)



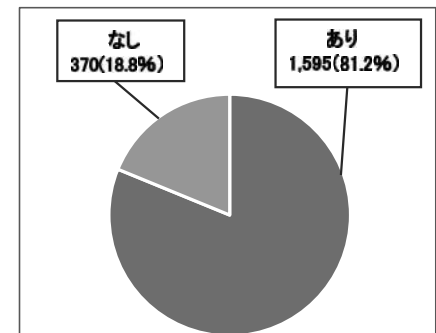
1-1. 給与改定の内容(n=1,000)



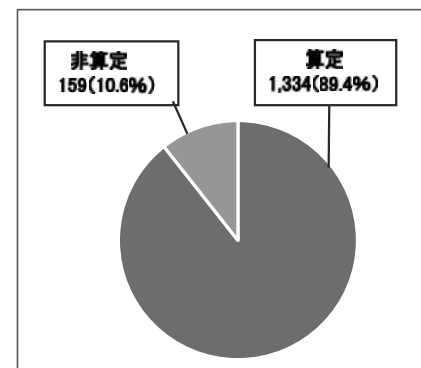
2. 定期昇給(n=2,005)



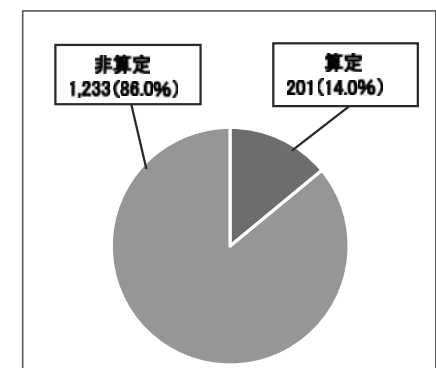
3. 令和6年度診療報酬に関する事項 賃上げ実施(n=1,965)



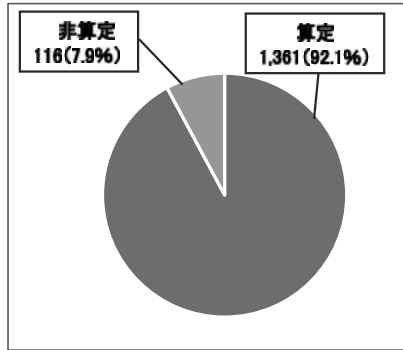
3-1. 評価料 I (n=1,493)



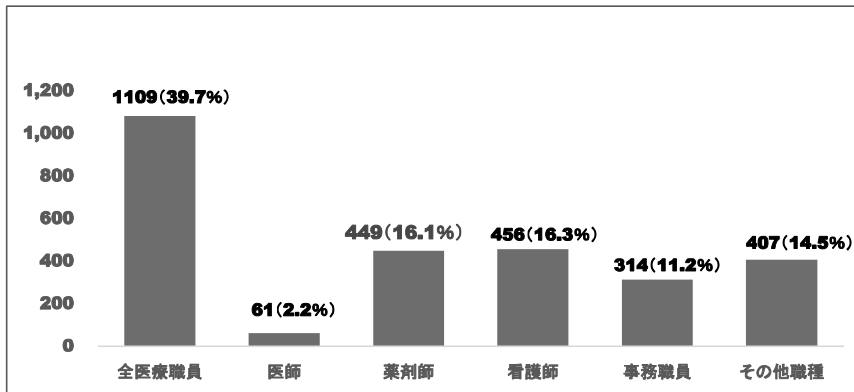
3-2. 評価料 II (n=1,434)



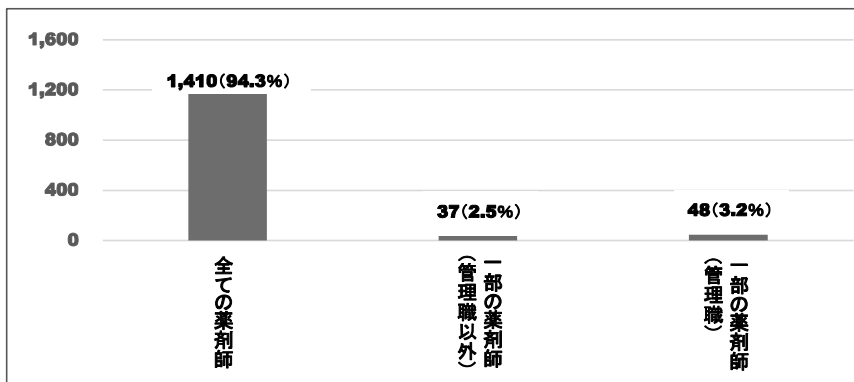
3-3入院ベースアップ評価料(n=1,477)



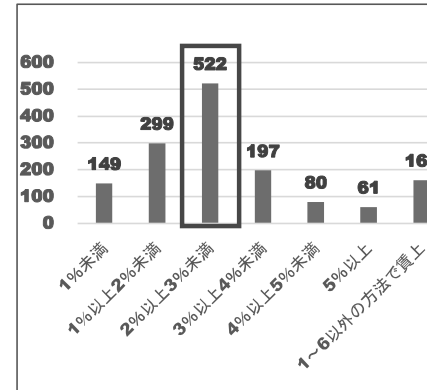
3-4.対象職種(複数回答)(n=2,796)



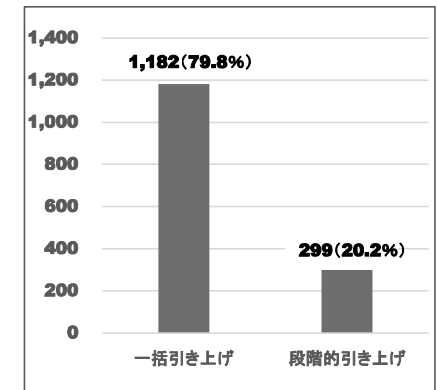
3-4-1 薬剤師の内訳(n=1,495)



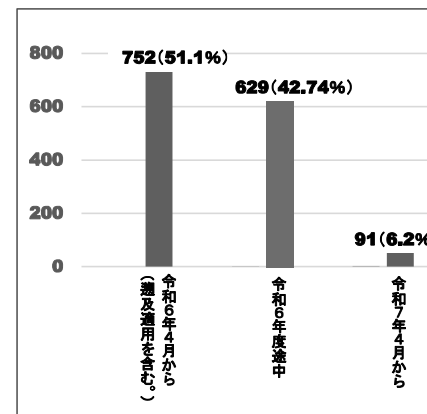
4.賃上げ率(n=1,469)



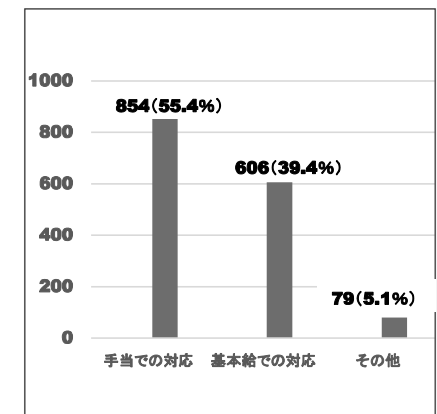
4-1.賃上げ方法(一括引上げ等)(n=1,481)



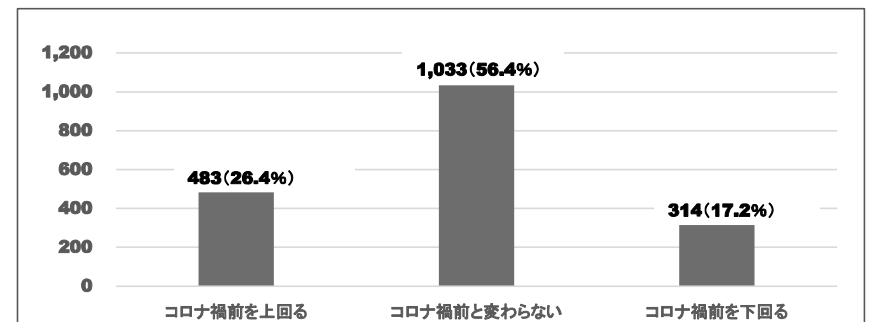
4-2.適用開始時期(令和6年4月から等)(n=1,472)



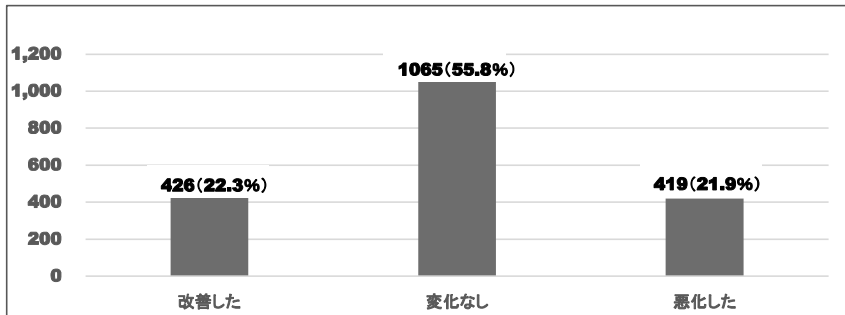
4-3.賃上げ方法(手当、基本給等)



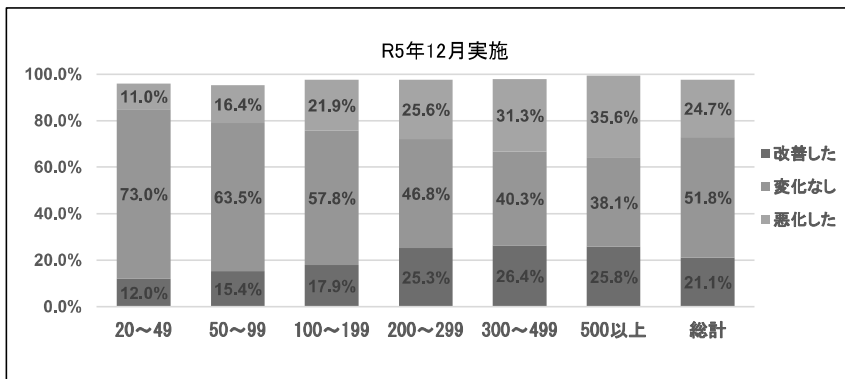
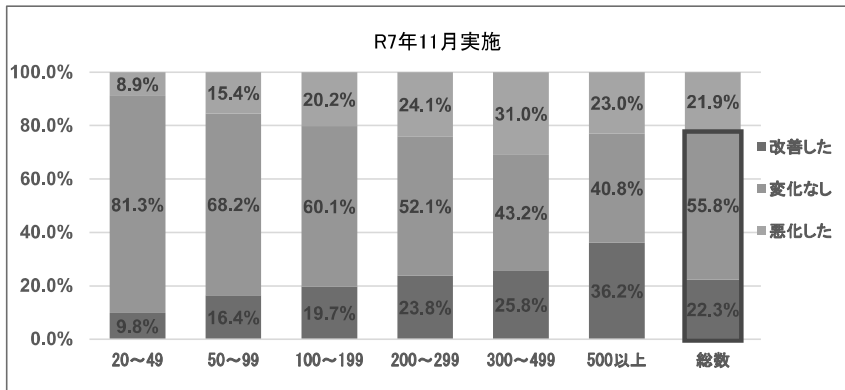
5.賞与(コロナ禍前とR6年度実績との比較)(n=1,830)



6.薬剤師の充足状況(R6.6月時点との比較)(n=1,910)



規模別充足状況



資料2 令和8年度薬剤師臨床研修事業について

「令和7年度薬剤師臨床研修の効果的な実施のための調査検討事業」

セッション1 薬剤師の臨床研修の基本理念と指導薬剤師の役割

1.1 薬剤師臨床研修とは

千葉大学医学部附属病院 薬剤部 石井 伊都子

目的

薬剤師臨床研修の意義、目的、基本理念を理解する

薬剤師の育成

博士の取得

指導薬剤師

専門薬剤師

認定薬剤師

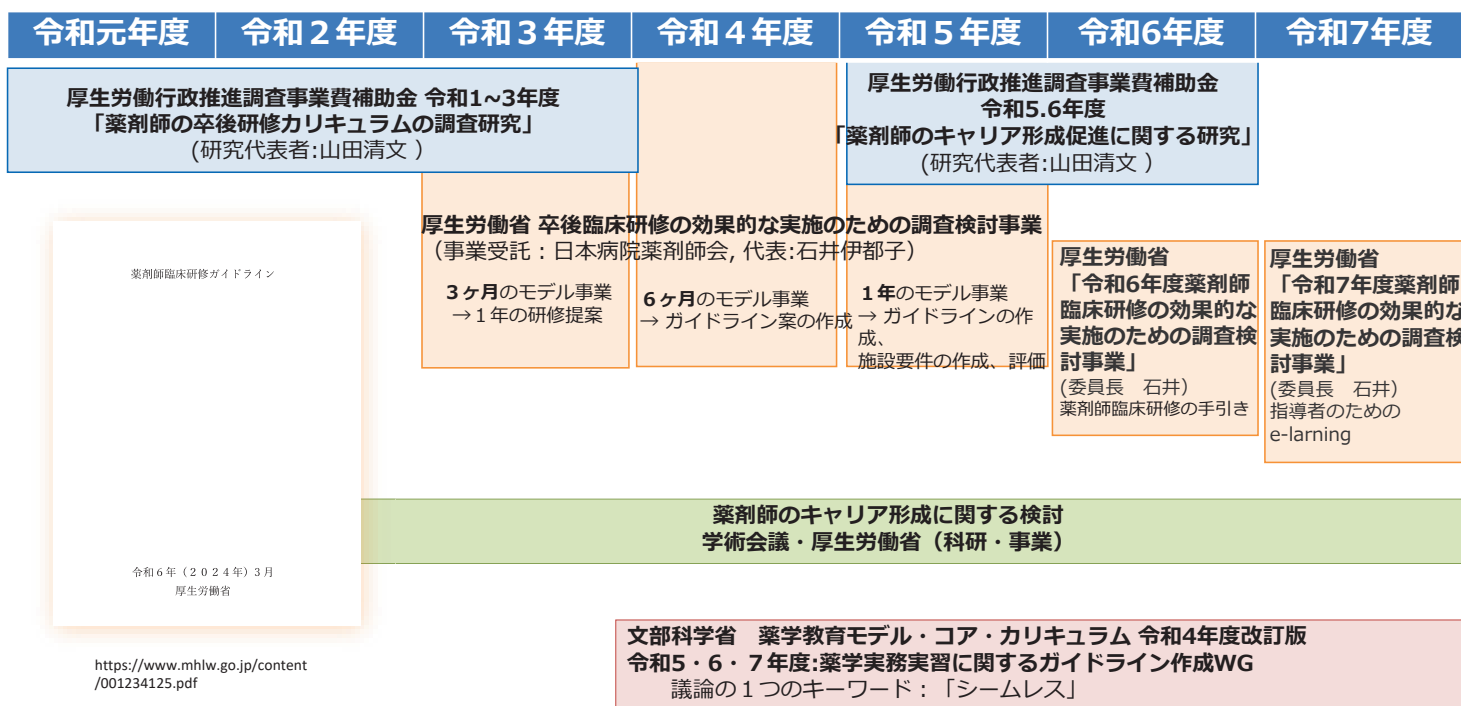
レジデント制・研修制度

← 薬剤師臨床研修

薬剤師国家試験

平成20年(2008年)8月28日
日本学術会議薬学委員会 専門薬剤師分科会
専門薬剤師に至るラダーを参考に作図

卒後研修事業の変遷



薬剤師臨床研修ガイドラインが必要な理由

薬学部実務実習の手薄さ



在宅医療

多職種間連携
(チーム医療)見学
のみ..

指導薬剤師のもと

研修カリキュラムの考え方が存在しない

大学病院など大病院
レジデント制度など

(ほんの一部に過ぎない)



- 臨床現場で勤務する薬剤師に必要とされることは何か
- 卒後研修が効果的に実施できているのか

2040年問題

日本の高齢者数がピークとなる一方、医療・介護の担い手が急減する

卒前

薬剤師になる



- 我が国の子どもたちは、他国に比べ、将来就きたい仕事や自分の将来のために学習をしようとする意識が低い
- 「とりあえず」大学へ進学

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/23/12/attach/1314525.htm

卒後

薬剤師である



ジェネラリスト
(薬全体を見る力)
→ 卒後臨床研修

シームレスな修学

薬学教育モデル・コア・カリキュラム（卒前）

授業
演習
実習

知識を習得し、
概念化する

正しい理解



薬剤師臨床研修



実践できる

薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）概要

大項目 A

薬剤師として求められる基本的な資質・能力

- 「医師/歯科医師/薬剤師に求められる基本的な資質・能力」を原則共通化
- 薬剤師として求められる10の基本的な資質・能力とその説明文を記載

- | | | | | | | | | | |
|-----------------|--------------------|------------------|----------|--------------------|------------------|----------------|----------------|------------|--------------------|
| 1. プロフェッショナルリズム | 2. 総合的に患者・生活者を見る姿勢 | 3. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢 | 4. 科学的探究 | 5. 専門知識に基づいた問題解決能力 | 6. 情報・科学技術を活かす能力 | 7. *薬物治療の実践的能力 | 8. コミュニケーション能力 | 9. 多職種連携能力 | 10. 社会における医師の役割の理解 |
|-----------------|--------------------|------------------|----------|--------------------|------------------|----------------|----------------|------------|--------------------|

* 医学/歯学は「患者ケアのための診療技能」



大項目 B~G

学修目標ほか

- 大項目の学修目標（卒業時の標準的なアウトカム）
- 基本的な資質・能力とのつながり
- 評価の指針（学修目標への到達を評価する視点）

小項目

ねらい

- 他の項目との関連性を明記
- 関連の強い項目を列挙

学修目標

- 個別の知識や技能を概念的に把握する目標
- 知識や技能を活用して判断し行動する目標

学修事項

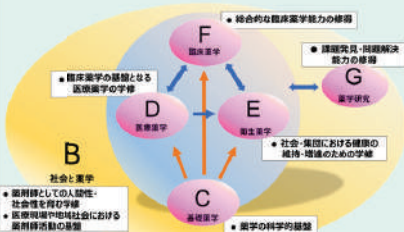
- 学修目標を達成するために必要な具体的な知識や技能・行為等
- 大学がカリキュラム作成に参考とする事項

大項目 A、B~G、DP の関係

A 薬剤師として求められる基本的な資質・能力
(生涯にわたって目標にする)

各大学のディプロマ・ポリシー (DP)
(卒業時に評価可能でAにつながるものとして策定)

大項目 B~G



薬剤師臨床研修ガイドライン（概要）

本ガイドラインは、薬剤師の資質向上のための臨床研修プログラムの指針として作成したものであり、病院・薬局を問わず臨床現場で勤務する薬剤師を対象とした臨床研修に関する自主的な取組の促進、研修内容の標準化等に資することを目的としたものである。

I 到達目標 薬剤師としての基盤形成の時期に、医療の担い手の一員として、薬学の視点を「チーム医療」に反映するための臨床能力を養成することを目的として、薬剤師としてのプロフェッショナリズムを自らのものとし、基本的薬剤師業務の実践スキルを修得することを目標とする。

1 プロフェッショナリズム

- (1) 社会的使命と公衆衛生への寄与
- (2) 利他的な態度
- (3) 人間性の尊重
- (4) 自らを高める姿勢

2 資質・能力

- (1) 医療における倫理性
- (2) 薬学知識に基づく実践能力及び問題解決能力
- (3) 服薬指導等に関する技能と患者ケア
- (4) コミュニケーション能力
- (5) チーム医療の実践
- (6) 医療の質と安全管理
- (7) 社会における医療の実践

方略の全般を通じて醸成

3 基本的薬剤師業務

- (1) 調剤業務
- (2) 医薬品の供給と管理
- (3) 医薬品情報管理業務
- (4) 病棟業務
- (5) 無菌調製業務
- (6) がん化学療法
- (7) 在宅訪問（在宅医療・介護）
- (8) 医療安全
- (9) 感染制御
- (10) 地域連携

方略で示す研修目標の達成

II 研修の方略 調剤業務、医薬品の供給と管理、医薬品情報管理業務、病棟業務、無菌調製業務、がん化学療法、在宅訪問（在宅医療・介護）、医療安全、感染制御、地域連携を必須研修項目とする。研修期間は、原則として1年間以上。

※一日/半日研修（AM病棟/PM調剤等）を組み合わせたり、在宅訪問日時に合わせ研修を実施する等、プログラムの検討を行うことを推奨。

- ◆ 病棟業務：一般内科・外科の薬物治療は必須研修項目。TDM業務、ICU・小児・産婦人科・精神科の薬物治療を選択研修項目。1～2ヶ月/病棟を目安として6ヶ月程度の研修を実施。カルテ情報などから医師の治療方針や処方意図を理解した上で、総合的に患者を見る視点を養う。また、病棟業務の中で、薬剤師として科学的思考力を修得する上で有益である臨床研究の実践等を推奨。
- ◆ 在宅訪問、地域連携：自宅や施設で生活する患者のもとに訪問して服薬指導や薬剤管理を行う。在宅医療や介護に関する各種支援制度や地域包括ケアシステムにおける他職種との役割を理解し、薬局での健康相談等も通じて地域連携を実践。期間は1ヶ月程度（柔軟に運用）。

III 到達目標等の達成度評価

（到達度記録・評価シート）

研修者が定期的に自己評価を行い、各項目について7段階の各到達点に到達した日付を記載。

（評価票Ⅰ及び評価票Ⅱ）

研修を通じた薬剤師としての知識・技能・態度に関する包括的な評価を研修者と指導薬剤師双方で実施。

研修期間は原則として1年間以上とする。

- ◆ 研修期間中に定期的に指導薬剤師との間で形成的評価（フィードバック）を実施。
- ◆ 研修終了時、作成されたレポート等も参考に、研修病院内の卒業研修管理委員会で達成度を評価。

IV 指導環境・指導体制

- ◆ 研修内容の主要部分を提供する研修病院に加えて、複数の研修協力病院や研修協力薬局が連携して研修施設グループを形成。
- ◆ 卒業臨床研修の中心となる研修施設の管理者、研修関連実務を統括する研修プログラム責任者、研修協力病院等の研修プログラム実施責任者が密接に連携して研修を実施。
- ◆ 研修病院に研修カリキュラム等の作成、研修者の達成度評価等を行う卒業研修管理委員会を設置。同委員会のもとに研修協力病院等の実務者による臨床研修連絡協議会を置いて研修内容の調整等を行う。

厚生労働省医薬局総務課より供与

薬学教育モデル・コア・カリキュラムと薬剤師臨床研修到達目標の関係

薬学教育モデル・コア・カリキュラム（卒前） 薬剤師として求められる基本的な資質・能力（A）

1. プロフェッショナリズム
2. 総合的に患者・生活者を見る姿勢
3. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢
4. 科学的探求
5. 専門知識に基づいた問題解決能力
6. 情報・科学技術を活かす能力
7. 薬物治療の実践的能力
8. コミュニケーション能力
9. 多職種連携能力
10. 社会における医療の役割の理解

薬剤師臨床研修 （第1章）

医療人としてのプロフェッショナリズム

社会的使命と公衆衛生への寄与、利他的な態度、人間性の尊重、自らを高める姿勢

薬剤師として求められる資質・能力

1. 医療における倫理性
2. 薬学知識に基づく実践能力及び問題解決能力
3. 服薬指導等に関する技能と患者ケア
4. コミュニケーション能力
5. チーム医療の実践
6. 医療の質と安全管理
7. 社会における医療の実践

調剤

薬学教育モデル・コア・カリキュラム（卒前）

D 医療薬学

- D-1 薬物の作用と生体の変化
- D-2 薬物治療につながる薬理・病態
- D-3 医療における意思決定に必要な医薬品情報
- D-4 薬の生体内運命
- D-5 製剤化のサイエンス

→ D-6 個別最適化の基本となる調剤

処方箋の役割、薬剤師として行う調剤の概念と基本を学修

F 臨床薬学

・・・大学において、薬物治療を個別最適化するために統合し、更に医療現場で実践することで「薬物治療の実践的能力」を修得する

F-1 薬物治療の実践

<学修目標>

6) 医薬品の適正使用の観点から、処方監査・解析を行い、疑義照会・処方提案を実践し、調剤、服薬指導、患者教育等を行う。

授業
演習
実習

薬剤師臨床研修

2-2 調剤業務(必修) 研修目標:

個別化医療を実現するための調剤業務の遂行とそれに必要な知識とスキルを習得する。

調剤業務研修では、処方監査時に医薬品情報のみで判断するのではなく、カルテ情報や検査値の確認を行い、医師の治療方針を把握した上で、**患者の状態を考慮した適切な調剤**(疑義照会や処方提案を含む)を行うよう指導する。

実践

シームレスな薬学教育

正しい理解（学生）から 実践者（薬剤師）になる



第1章 到達目標 (p8~)

薬剤師は、高い倫理性と使命感を持ち、薬の専門家として医療安全を深く認識し、責任をもって患者を含め生活者の命と健康な生活を守り、医療と薬学の発展に寄与して社会に貢献できるよう、その使命の遂行に必要な**資質・能力**を身に付け生涯にわたって研鑽していく必要がある。

薬剤師としての基盤形成の時期に、医療の担い手の一員として、医療機関や地域医療の現場で、薬学の視点を「チーム医療」に反映するための臨床能力※を養成することを目的として、医療人としてのプロフェッショナリズムを自らのものとし、基本的薬剤師業務の実践スキルを習得することを目標とする。

※ 臨床能力：患者中心の視点から、医療機関や薬局などの臨床現場において、個別最適な薬物治療を提供する能力をいい、医療機関・薬局に関わらず、今後の薬剤師に求められる役割の充実化を図る上で基盤となるものである。

1 プロフェッショナリズム

- (1) 社会的使命と公衆衛生への寄与
- (2) 利他的な態度
- (3) 人間性の尊重
- (4) 自らを高める姿勢

2 資質・能力

- (1) 医療における倫理性
- (2) 薬学知識に基づく実践能力及び問題解決能力
- (3) 服薬指導等に関する技能と患者ケア
- (4) コミュニケーション能力
- (5) チーム医療の実践
- (6) 医療の質と安全管理
- (7) 社会における医療の実践

方略の全般を通じて醸成

3 基本的薬剤師業務

- (1) 調剤業務
- (2) 医薬品の供給と管理
- (3) 医薬品情報管理業務
- (4) 病棟業務
- (5) 無菌調製業務
- (6) がん化学療法
- (7) 在宅訪問（在宅医療・介護）
- (8) 医療安全
- (9) 感染制御
- (10) 地域連携

方略で示す研修目標の達成

厚生労働省医薬局総務課より供与

13

第2章 研修の方略 研修期間 (p15~)

- 研修期間は原則として1年間以上とする。
- 研修施設については、薬局を含む複数の施設が連携して研修を行うことが可能。必ず在宅訪問（在宅医療・介護）研修を行うこと。
- すでに臨床研修として実践されている研修期間（2年間など）を否定するものではない。

例1

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
オリエンテーション												
調剤業務（内服、外用、注射）	実線			破線								
供給管理・DI・無菌調製・がん化学療法	実線			破線								
病棟業務（入院患者の薬物治療管理）	実線			破線								
TDM、ICU・小児・産婦人科・精神科の薬物治療	実線			破線								
在宅訪問（在宅医療・介護）	実線											

例2

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
オリエンテーション												
供給管理	実線			破線								
無菌調製	実線			破線								
DI	実線			破線								
調剤業務（内服、外用、注射（院内製剤））	実線											
病棟業務（入院患者の薬物治療管理）	実線											
がん化学療法	実線											
TDM、ICU・小児・産婦人科・精神科	実線											
地域連携	実線											
医療安全、感染制御	実線											
在宅訪問（在宅医療・介護）	実線											

実線で囲んだ項目を必修、破線で囲んだ項目を選択とした。

例1は見やすいように履修項目を並べてある。例2のように、一日研修や半日研修（AM病棟/PM調剤等）を組み合わせた、訪問日時に合わせて在宅訪問研修を実施する等、研修施設グループの状況に合わせて、研修プログラム、研修実施施設等の検討を行うことを推奨する。

厚生労働省医薬局総務課より供与

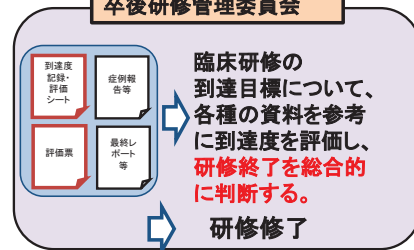
14

第3章 到達目標等の達成度評価 (p47~)

到達目標

- A 医療人としてのプロフェッショナリズム
 - 1 社会的使命と公衆衛生への寄与
 - 2 利他的な態度
 - 3 人間性の尊重
 - 4 自らを高める姿勢
- B 資質・能力
 - 1 医療における倫理性
 - 2 薬学知識に基づく実践能力及び問題解決能力
 - 3 服薬指導等に関する技能と患者ケア
 - 4 コミュニケーション能力
 - 5 チーム医療の実践
 - 6 医療の質と安全管理
 - 7 社会における医療の実践
- C 基本的薬剤師業務

卒後研修管理委員会



(1)-1 研修の方略(到達度記録・評価シート)

- 1 調剤業務(院内製剤含む)
- 2 医薬品の供給と管理業務
- 3 医薬品情報管理業務
- 4 病棟業務
- 5 在宅訪問(在宅医療・介護)
- 6 医療安全
- 7 感染制御
- 8 地域連携
- 9 無菌調製
- 10 がん化学療法
- 11 TDM(Therapeutic Drug Monitoring)
- 12 ICU・小児・産婦人科・精神科の薬物治療

(1)-2 薬剤師としての知識・技能・態度に関する包括的評価

- 評価票Ⅰ(段階評価)
- ・ 医療人としてのプロフェッショナリズム
 - ・ 資質・能力
- 評価票Ⅱ(ルーブリック評価)
- 1 薬物治療の実践
 - 2 多職種連携への参画・薬剤師の職能発揮
 - 3 医薬品の供給と管理
 - 4 医薬品情報の管理と活用
 - 5 医療安全の実践
 - 6 医療現場での感染制御
 - 7 地域住民の疾病予防・健康維持・増進の推進、介護・福祉への貢献
 - 8 地域での公衆衛生、災害対応への貢献
 - 8 医療・福祉・公衆衛生の現場で活動するための基本姿勢

厚生労働省医薬局総務課より供与

第4章 指導環境・指導体制 (p49~)

研修施設グループ

研修施設

卒後研修管理委員会

- 【役割】
- ・ 研修グループにおける研修の統括
 - ・ 研修プログラム・カリキュラム作成
 - ・ グループにおける研修体制の構築・整備、受入人数の決定
 - ・ 指導薬剤師等の育成
 - ・ 研修薬剤師の到達目標に対する達成度の評価
- 【構成員】
- ・ 管理者
 - ・ 研修プログラム責任者
 - ・ 協力病院、協力薬局の研修プログラム実施責任者
 - ・ 事務部門責任者 等

管理者(病院長等)

研修プログラム責任者

- ・ 研修関連実務の統括
- ・ プログラムの企画・立案、実施管理
- ・ 研修薬剤師に対する助言、指導等
- ・ 研修プログラム実施責任者との連携

指導薬剤師

研修薬剤師

指導者(他職種含)

臨床研修連絡協議会

研修プログラム・カリキュラム案の調整

研修協力病院

研修プログラム実施責任者

- ・ 研修の管理

指導薬剤師

研修薬剤師

研修協力薬局

研修プログラム実施責任者

- ・ 研修の管理

指導薬剤師

研修薬剤師

厚生労働省医薬局総務課より供与

ガイドラインの活用法

ガイドライン及び評価表：薬剤師業務の基本的スタンス

そのまま

病院の特徴の応じた表現に変える

研修者の成長と研修に質担保のため

評価は必ず行う



さあ、
薬剤師臨床研修
を始めましょう

Challenge

資料3 日本病院薬剤師会 求人・求職システムについて

日本病院薬剤師会 就職ポータルサイトを活用しよう！

日本病院薬剤師会は、求人・求職システム、施設紹介ページ、都道府県病院薬剤師会が主催、共催又は協力している就職セミナーや、病院見学、インターンシップ、その他薬学生向けのイベントを掲載できるページをまとめたポータルサイトを作成いたしました。
就職に関する有益な情報が掲載されていますので、是非ご活用ください！

ページは
こちらから

「日本病院薬剤師会 就職ポータルサイト
<https://www.jshp.or.jp/findwork/>



施設紹介

日本病院薬剤師会会員の皆さまが所属する、全国の施設をご紹介します。

病院の特色や、病床数、診療科数、病棟数などを掲載しています。

地図からも施設を選べるようになりました！

薬剤部の
紹介ページも
掲載されています

都道府県またはイベントの種類で検索ができます！

就職セミナー・イベント等掲示板

都道府県病院薬剤師会が主催、共催又は協力している就職セミナーや、病院見学、インターンシップ、その他薬学生向けのイベントを、掲示板でご覧いただけます。

各都道府県病院薬剤師会の就職のページのリンクを掲載しています



京都の病院・診療所で
働きたい薬学生・薬剤師の方

病院求人情報サイト

をご活用ください。

Concept

薬学生や、現在就労していない薬剤師が、京都府内医療機関の採用情報、その他就職のために参考となる情報等が検索しやすいよう、一般社団法人日本病院薬剤師会、京都私立病院協会、当会、及び薬働ナビ（株）プラスエイチ）が掲載する求人関連情報を集約した「〈京都府内〉病院求人情報サイト」を作成いたしました。

ぜひ、ご活用ください。



〈京都府内〉
病院求人情報サイト >>> Web. <https://plus-h.jp/kyotofu-hospital-recruit/>

このポータルサイトから、以下のサイトの求人情報を閲覧できます

- 京都府病院薬剤師会 …………… 求人情報や、病院説明会・薬学生向け病院就職イベント情報等を随時掲載
- 日本病院薬剤師会「求人・求職システム」 …………… 詳細項目（病院種別・勤務地域・給与等）で検索可能
- 薬剤師サポートネット（京都私立病院協会） …………… 復職支援や病院見学情報等を掲載
- 薬働ナビ（株）プラスエイチ） …………… 薬学生向け就職支援サイト。専門資格研修制度や奨学金制度等詳細情報で検索可能

上記サイトへの採用情報掲載を希望する医療機関の方も、本サイトより掲載方法が確認できます。
ぜひご活用ください

資料4 令和7年度 部会、各WG事業報告

令和7年度 病院診療所薬剤師部会 事業報告

令和7年度 部会総会 1回 (5月11日)

評議員会・部会長会 11回 (5月22日、6月27日、7月31日、8月28日、9月25日、10月24日、11月27日、12月18日、1月22日、2月20日、3月26日)

賛助会員向け病院薬剤部見学会 実施施設8施設 (見学実績139名 (延べ)、23社、11月～1月)

京都府後発医薬品安心使用促進事業(京都府委託事業)

「Kyoto Biosimilar Advanced Conference 2025」

日時：10月3日 (金) 14:00～16:30 会場：京都府薬剤師会館 2階 ホール

次第 「バイオシミラーの使用実態調査からみる現状」

講師：京都府薬剤師会副会長/日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会理事 楠本正明 先生

「当院におけるバイオシミラー使用普及に向けた取組事例」

講師：洛和会音羽病院 薬剤部 課長 尾濱 直子 先生

「バイオシミラー普及に向けた更なる医療機関での対応と課題」

講師：亀田総合病院 薬剤部 部長 舟越 亮寛 先生

参加者149名 (病診105名、薬局39名、非会員5名)

日本病院薬剤師会 ・近畿ブロック 事業

役職		役員氏名	会名	開催年月日	出席者
日 病 薬 担 当 役 員	会長	三浦 誠	地方連絡協議会	10月18日	三浦
	代議員 (3名)	土谷 有美	第71回通常総会 第72回臨時総会	6月21日	土谷・長谷川・三浦
		長谷川 晃司		2月28日	
		三浦 誠			
役職		氏名	会名	開催年月日	出席者
近畿ブロック会議 (会長・副会長・委員長)			近畿ブロック会議 WEB開催	2月3日	会長・副会長
会長会		三浦 誠	会長会	8月15日	三浦
			会長・委員長会	12月17日	三浦・長谷川
近 畿 ブ ロ ッ ク 委 員 会	中小病診	樋口 眞宏	委員会	10月28日	樋口・三浦
		三浦 恭子		1月31日	
	薬事制度 (委員長)	長谷川 晃司	委員会	10月29日	長谷川・竹田
		竹田 和也			
	卒前・卒後教育	小阪 直史	委員会	11月27日	小阪・大津山
		大津山 裕美子			
	社会保険	林 明仁	委員会	10月24日	佐藤
	佐藤 和生				
生涯研修	岡橋 孝侍	委員会	10月10日	岡橋・瀧	
	瀧 紹代				
学 術	小野 勝	委員会	12月11日	小野・林	
	林 千麗				
薬剤業務	仁丹 裕子	委員会	12月3日	仁丹・岩根	
	岩根 裕紀				
薬剤業務向上加算にかかる出向研修モデル作成の手引きの説明会 (8月22日	友金
日病薬：医療政策部セミナー (Web)				3月21日	三浦、長谷川、小阪

【人財確保WG】

WG会議5回（①6月9日17名（会長会メンバー含む）、②6月17日4名（コア会議）、
③10月27日14名、④12月23日8名、⑤3月12日）

1. 「京都府北部病院見学ツアー（京都府委託事業）」

日程：11月12日（水）・13日（木）・14日（金） 3日間（日帰り）

場所：舞鶴地域、福知山地域、丹後地域

内容：舞鶴共済病院、市立福知山市民病院、京丹後市立久美浜病院を中心に各地域の病院紹介、
市役所職員による地域の特色紹介、観光地案内 等

参加：19名（6大学）

2. 「病院ふれあいフェスタ2025」

日時：11月23日（土・祝）11：00～16：30 会場：ニプロ株式会社 本社（大阪府摂津市）

プログラム：オープニング（京都府知事挨拶）・機能別病院の紹介・各施設紹介動画投影・
グループセッション 等

参加 33法人・参加学生 90名（13大学）

イベント後、「病院ふれあいフェスタ2025」参加施設紹介動画・イベント動画をHPへ掲載

3. 病院就活準備応援Webセミナーin京都 WEB開催（2回）

① 日時：9月6日（金）19：00～20：00 WEB開催

講演「外来がん治療認定薬剤師として活躍する薬剤師
～がん治療薬学生エキスパートって知ってる？～」

講師 京都中部総合医療センター 薬剤部 春名 康裕 先生

お知らせ「京都府北部の病院で働く魅力～見学ツアーに参加しよう！～」

京丹後市立久美浜病院 薬剤部 和田 昭 先生

市立福知山市民病院 薬剤部 足垣 亮介 先生

お知らせ「病院ふれあいフェスタ2025」

洛和会学術支援センター 黄前 尚樹 先生

対象：薬学生 参加学生25名

② 日時：12月6日（金）19：00～20：00 WEB開催

講演1「急性期・高度急性期病院で働く新人薬剤師」

講師 畠山陽平先生（京都第一赤十字病院薬剤部）

講演2「外来がん領域で活躍する中堅薬剤師」

講師 京都第二赤十字病院 薬剤部 野口 裕介 先生

講演3「採用にかかわる管理職薬剤師」

講師 舞鶴共済病院 薬剤部 竹田 和也 先生

対象：薬学生 参加学生14名

3. 「病院ふれあいspecial week」（2回）

病院集中見学会を実施し、学生会員等へ案内

第1回 8月5日～8月18日の期間で開催 35施設エントリー

第2回 11月4日～11月17日の期間で開催 24施設エントリー

【管理職等交流WG】

1. 病診部会総会

日時：5月11日（日）14：00～16：30 会場：京都府薬剤師会館 2階 ホール

参加者56名・委任状917名（正会員1,169名）

- 次第
1. 報告事項（令和6年度 病院診療所薬剤師部会 事業報告 等）
 2. 京病薬【功労賞・優秀学術論文賞・学術奨励賞・病院薬学賞】表彰授与式
 3. 病診部会 部会長 選出、日病薬 代議員選出
 4. 新部会長挨拶・令和7年度 病院診療所薬剤師部会 事業計画

2. 管理職等交流会

第25回 管理職等交流会

日時：1月10日（土）14：00～17：00 会場：京都府薬剤師会館 2階 ホール

- 次第
1. 病院診療所薬剤師部会WG活動報告 14時20分～14時50分
 - (1) 調査研究WG「病院薬剤師充足調査」実施報告 調査研究WG長 長谷川 晃司
 - (2) 人財確保WG「京都府北部病院ツアー」等 実施報告 人財確保WG長 黄前 尚樹
 2. 情報提供 15時00分～16時00分
 - (1) 電子処方箋に関する情報提供
日本病院薬剤師会 医療情報システム小委員会 委員長
京都第二赤十字病院 薬剤部副部長／医療情報室 副室長 岡橋 孝侍 先生
 - (2) 導入施設からの事例
地方独立行政法人京都市立病院機構 京都市立病院 薬剤部 部長 小野 勝 先生
 3. 意見交換・グループディスカッション

参加者43名（27施設）

3. 製薬企業等との情報交換会

日時：7月23日（水）19：00～21：00 会場：京都テルサ

- 次第
1. 情報提供・報告事項
「令和7年度病院診療所薬剤師部会体制について」
一般社団法人京都府薬剤師会 病院診療所部会 部会長 三浦 誠
「賛助会員限定 病院薬剤部見学会 報告」
一般社団法人京都府薬剤師会 病院診療所部会 副部会長 長谷川 晃司
 2. 情報交換・Q&A フリートーク

参加者136名（企業）、病診部会員24名

4. 日病薬 薬剤部門現状調査

令和7年度 提出（会員施設） 76施設 提出率 54.7%

【表彰WG】

I 京病薬 令和7年度 表彰募集

1月施設便にて表彰者の推薦を募集

(功労賞・優秀学術論文賞・学術奨励賞・病院薬学賞 他)

表彰審査 表彰WGの審査を評議員会にて承認

II 令和7年度 受賞者

1 功労賞 1名

友金 幹視 京都第二赤十字病院

2 優秀学術論文賞 1名

① 古田 祐美子 京都桂病院

表題「転移性大腸がん患者におけるレゴラフェニブ誘発性蛋白尿と生存期間の関連：単施設後方視的研究」

医療薬学. 51 (8) . 469-475. 2025

3 学術奨励賞 5名

① 小池 恵里奈 洛和会音羽病院

「National Early Warning Scoreを用いた急変高リスク患者への薬剤師の介入効果」

第35回日本医療薬学会年会 2025年11月22日～11月24日

② 柴田 かおり 京都府立医科大学附属病院

「高濃度カリウム製剤の安全な使用に向けたマニュアル導入の有効性評価」

第20回 医療の質・安全学会学術集会（京都） 2025年11月8日～11月9日

③ 藤塚 万椰 洛和会丸太町病院

「中等度催吐性リスク薬剤使用時のプロイメンド点滴静注からアロカリス点滴静注への変更による遅発期悪心・嘔吐発生の変化」

第46回日本病院薬剤師会 近畿学術大会 2025年1月26日

④ 松本 剛 三菱京都病院

「がん化学療法関連心筋傷害に対するプロトコルの構築及びタスクシェアの試み」

第46回日本病院薬剤師会 近畿学術大会 2025年1月25日

⑤ 眞部 実穂 京都きづ川病院

「関節リウマチ (RA) 患者における治療希望に関するアンケート調査報告」

第69回日本リウマチ学会総会・学術集会 2025年4月24日～4月26日

4 病院薬学賞 1施設

① 六地藏総合病院

「2の策！薬剤師だけじゃ乗り切れない！他職種の力を借りてタスクシフト・シェアを実践する！」

Future pharmacist forum 2025 シンポジウム

5 京都府病院薬剤師会 会長特別賞 1名

① 加藤 良隆 京都第二赤十字病院

参考資料「連携充実加算による情報提供と抗がん薬フォローアップシートの利活用が保険薬局薬剤師による患者フォローアップに与える効果」

医療薬学. 51(4). 252-265. 2025

【調査研究WG】

1. 「病院薬剤師充足調査」の実施

1回実施（6月 58施設回答）

病院診療所薬剤師部会総会・管理職等交流会での調査結果報告（5月11日、1月10日）

調査結果の分析、離職率・欠員数・充足率の評価検討

2. 学会発表支援 随時相談

相談件数：0 件

【領域別支援WG】

WG会議2回（7月22日 21名 3月24日 21名）

1. 領域別カンファレンス

領域別カンファレンス 新規登録（5領域まで）募集

領域別カンファレンス登録者 342名（75施設） 23領域延べ 906名〔令和8年3月31日現在〕

23領域別カンファレンス 延べ34回開催 メーリングリスト投稿 延べ 4,941回
企業協賛勉強会等 7回開催

2. 薬剤師力向上講座の開催

日時：1月12日（月・祝）14:00-16:25

場所：京都府薬剤師会館

イントロダクション「脳卒中にどう対応する？ 薬剤師力向上のために」

講師 医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院 薬剤部 部長 三浦 誠 先生

症例提示 & 解説「こんなときどうすれば？！／

ケースごとの脳卒中中のチェックポイントを学ぼう！」

<症例提示> 京都第二赤十字病院 薬剤部 島 加奈子 先生

京都大学医学部附属病院 薬剤部 山本 将太 先生

<解説> 京都大学医学部附属病院 薬剤部 川田 将義 先生

参加者数 19名（病診部会10名、薬局部会9名）

3. 事業活動広報

①病院就活準備応援Webセミナーにおける薬学生向け広報（令和7年9月26日、12月6日）

②第46回日本病院薬剤師会近畿学術大会（令和7年1月25日）

③日経DI「より抜きDIアップデート」連載（令和5年4月～）

④月刊薬事連載開始（令和5年11月～）

⑤京都府糖尿病重症化予防対策人材育成事業への協力

・研修会「糖尿病関連治療薬の適正使用に関する薬剤師フォーラム」

日時：2月26日（木）18:45-20:30 WEB開催

特別講演①「入院前から始める糖尿病療養支援 ― チーム医療における薬剤師の役割」

医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院 薬剤部 主席課長 大津山 裕美子 先生

特別講演②「DM/CKD/CHF治療におけるSGLT2阻害剤の適正使用～病院での取り組みも踏まえて

～」

京都第二赤十字病院 薬剤部 医薬情報管理課 課長 澤田 真嗣 先生

参加者数 211名（病診部会123名、薬局部会82名、学生1名、非会員5名）

・「シックデイ啓発資料」（クリアファイル）の監修

⑤京都府後発医薬品安心使用促進事業への協力

バイオシミラー啓発リーフレットの作成

〔令和8年3月31日時点〕

領域別カンファレンス	登録者数
1. 循環器	67
2. 呼吸器	16
3. 糖尿病	48
4. 造血器	26
5. 免疫・アレルギー	16
6. 脳神経	32
7. 産婦人科	21
8. 整形外科	25
9. 腎・透析	56
10. 精神科	22
11. 小児医療	34
12. 高齢者医療	40
13. 周術期医療	49
14. 集中治療	37
15. 緩和ケア	58
16. 外来がん治療	69
17. 医薬品情報	45
18. 医療安全	28
19. 感染制御	75
20. NST	46
21. 救命救急	36
22. 災害医療	30
23. 医療情報	30
総合計	906

【連携支援WG】

WG会議1回（①8月6日 9名）

1. 連携支援ツールの普及

- (1) 「連携ツールの強化書 9疾患から始める簡単フォローアップ術」の発行（じほう社）
5疾病（がん、脳卒中、心筋梗塞等の心血管疾患、糖尿病、精神疾患）、30の症例における具体的な介入方法、フォローアップシートの作成例を紹介。
7種類のフォローアップシート（抗がん薬、鎮痛薬、心不全治療薬、血栓症治療薬、糖尿病治療薬、慢性腎臓病治療薬、精神神経用薬）を専用ウェブサイトからダウンロード可能。
- (2) 基幹病院におけるフォローアップ活用状況・有用性に関する調査
多機関共同研究実施中。
- (3) 新規フォローアップシートの作成
リウマチ関連治療薬、IPE治療薬の2種類を作成

2. 「服薬フォローアップ連携支援セミナー」の開催（3回）※後日オンデマンド配信

第6回 日時 8月27日（水）19：00～20：00 WEB開催

講演「これだけで自信がつく！カペシタビンの処方監査～A法B法C法？
これはD法？え？E法？ 違法にならないためのチェックシート～」

講師 京都第二赤十字病院 薬剤部 加藤 良隆 先生

参加者46名（病診23名、薬局21名、非会員2名）

第7回 日時 9月20日（土）18：00～19：30 WEB開催

講演「フォローアップシートで変わる！IPF治療薬の副作用対応と継続支援」

講師 医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院 薬剤部 伴 具也 先生

参加者29名（病診13名、薬局14名、非会員2名）

第8回 日時 10月19日（土）18：00～19：30 WEB開催

講演①「関節リウマチ治療を支える！病院×薬局 協働で広がるフォローアップ」

講師 医療法人啓信会 京都きづ川病院 医療技術部 薬剤部門 眞部 実穂 先生

講演②「フォローアップシートの活用方法について」

講師 京都第二赤十字病院 薬剤部 加藤 良隆 先生

参加者47名（病診20名、薬局27名）

3. 医療安全委員会との合同研修「保険薬局から病院に届くトレーシングレポートを検証する」

日時 2月25日（水）19：00～20：30 WEB開催

講演①「医療の質を高めるGoodJob！～連携で実践できる『もう一步』の貢献～」

講師 薬局ダックス長岡京今里二丁目店（医療安全委員会委員）日比 麻有 先生

講演②「トレーシングレポートが拓く！『報告』から『連携』へ

～情報共有で実現する薬剤師のGoodJob～」

講師 京都第二赤十字病院 薬剤部 福田 喬士 先生

参加者138名（病診71名、薬局67名）

4. 入院時スクリーニングシートの普及

継続して普及していく。

5. クリニカルインディケータの作成・状況分析継続中

データ収集対象基幹病院9施設

京大・府立医大・第一日赤・第二日赤・京都市立・京都桂・音羽・中部総合・京都医療センター

6. 疑義照会・インシデント等報告先一覧の更新

2025年1月更新・ホームページへ掲載、随時見直し

【業務推進WG】

WG会議2回（9月1日 8名、12月11日 9名）

1. 病棟薬剤業務・周術期業務の強化

- ・ WGにおける活動方針の決定（タスクシフト・シェアの推進、PBPM、アウトカムの創出）

2. タスクシフト・シェアの推進、PBPM、アウトカムの創出（診療報酬関連）の推進

- ・ 各施設のPBPM導入状況・導入にあたっての課題等に関する調査項目の検討

【精神療養中小WG】

WG会議4回（①7月1日 8名 ②2月23日 6名）

1. 精神療養中小病診薬剤師のためのスキルアップセミナー

(1) 日時：7月13日（日）9：45～15：15 会場：府薬ホール

講演1「褥瘡を治すために必要な病態評価と最新の外用薬治療フルタ・メソッド」

講演2「治癒環境を整える創固定と創傷衛生を実践する外用薬治療」

講師 医療法人愛生館 小林記念病院 褥瘡ケアセンター長 古田 勝経 先生

実技「フルタメソッドに基づく薬剤師の実技指導」

講師 医療法人愛生館 小林記念病院 褥瘡ケアセンター長 古田 勝経 先生

参加者 35名（病診部会24名・薬局部会11名）

(2) 日時：9月5日（火）19：00～20：30 WEB開催

テーマ：回復期病棟における生活機能を考慮した服薬支援

一般講演「回復期病棟における薬剤業務の実際」

講師 十条武田リハビリテーション病院 薬局 係長 寺坂 和雄 先生

特別講演「回復期病棟における薬剤師のかかわり方 ～退院後を見据えた服薬支援～」

講師 昭和医科大学藤が丘病院 薬剤部 薬剤部長 藤原 久登 先生

参加者 125名（病診部会85名、薬局部会40名）

2. 薬剤師のための精神科セミナー

日時：2月23日（月・祝）13：15～16：00 WEB開催

特別講演1「いま選ぶならどの睡眠薬？—オレキシン受容体拮抗薬4剤時代の処方戦略」

講師 京都第一赤十字病院 心療内科 部長 名越 泰秀 先生

特別講演2「市販薬オーバードーズの理解と対応～薬剤師にできること～」

講師 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所薬物依存研究部 部長 松本 俊彦 先生

参加者 226名（病診部会100名、薬局部会124名、非会員2名） 日病薬専門認定受講証28名交付

3. 老健施設への、薬剤師のかかわり方アンケート

実施項目の検討

【会員交流WG】

WG会議3回（①8月2日 10名 ②10月28日 8名 ③11月17日 8名）

1. 令和7年度 新任薬剤師研修会

日時：8月2日（土）14:00-16:25

場所：京都府薬剤師会館

講演1「特定機能・地域支援型病院 薬剤師の立場から」

講師 京都大学医学部附属病院 薬剤部 川田 将義 先生

講師 京都中部総合医療センター 薬剤部 米山 真穂 先生

講演2「地域連携型病院 薬剤師の立場から」

講師 京都田辺中央病院 臨床薬剤部 竹内 将貴 先生

講演3 職業倫理「'ひと'として'薬剤師'として」

講師 病院診療所薬剤師部会 副部会長 土谷 有美 先生

グループワーク

参加者数 58名（ファシリテーター含む）

2. 京都薬用植物園見学会

日時：10月18日（土）13:00-14:30

場所：武田薬品工業株式会社 京都薬用植物園

参加者数 15名（会員家族含む）

3. 中堅薬剤師交流会

日時：3月6日（金）19:00-

場所：炭火とワイン 四条河原町店

参加者数 15名

資料5 令和8年度 部会事業計画・予算（案）

令和8年度 病院診療所薬剤師部会 事業計画・予算(案)

No.	新規・継続	会議名・行事名など	計(円)	予算内訳
1	新規	日病薬 近畿学術大会準備委員会 令和9年度に京都で開催される第49回日本病院薬剤師会近畿学術大会に向けた準備等	125,000	交通費・会議日当:会場下見交通費1,000円×3回×5人 会議日当:2000円×11人×5回
2	継続	日病薬 近畿ブロック会長会・委員長会、ブロック会議、各委員会 ①日病薬 近畿ブロック 会長会・委員長会 会議 年2開催 ②日病薬 近畿ブロック会議 年1回 兵庫県 集合開催 ③日病薬 近畿ブロック 7委員会 会議 秋期開催予定 委員各2名	77,400	会長・委員長会:交通費 10,000円×2名=20,000円 ブロック会長会費:分担金 20,000円 ブロック会議:負担金 1,000円×15名=15,000円 委員会:交通費 2,000円×14名×0.8=22,400円(日当なし)
3	継続	病診部会 会長会・評議員会 会議 病診部会事業決定基幹会議 ①部会長会 会議 6回(WEB 6回) ②評議員会 会議 6回(WEB 6回)	389,000	部会長会:105,600円 WEB:22,000円(11人×2000円)×6回×0.8=105,600円 評議員会: 278,400円 WEB:58,000円(29人×2000円)×6回×0.8=278,400円 資料印刷:消耗品費 5,000円
4	継続	病診部会 施設定期便・臨時便、特別会員定期便 送付 施設宛 定期便・臨時便 (日病薬 現状調査依頼 他) 賛助会員病院薬剤師部見学会広報	247,580	施設便送料180施設×送料88円×12回=190,080円 臨時便180施設×送料110円×12回=19,800円 消耗品費:印刷費 30,000円 郵送料:110円×70(賛助会員数)=7,700円
予算小計(WG活動費除く。1000円未満切り上げ。)				839,000

令和8年度 病院診療所薬剤師部会【9WG】事業計画案

No. (優先順位)	新規・継続	WG	実施日・実施回数	会議名・行事名など	合計 (円)	予算内訳
1	継続	管理職等交流WG	令和8年5月17日	部会総会・表彰式・学術講演会	117,500	通信運搬費:委任状送付及び提出送料:30,000円 消耗品費:総会関連資料・事業報告書10,000円 諸謝金:講演料35,000円 表彰者への贈答費(生花):3,000円×10人=30,000円 交通費:講師旅費10,000円 消耗品費:単位申請2,500円×1回=2,500円
2	継続	管理職等交流WG	各1回	管理職等交流会・MR交流会	162,500	通信運搬費:案内・資料送付20,000円 消耗品費:資料作成5,000円×2回=10,000円 諸謝金:講演料35,000円×2回=70,000円 交通費:講師旅費30,000円×2回=60,000円 消耗品費:単位申請2,500円×1回=2,500円
3	新規	会員交流WG	令和8年11月15日	京都府病院薬剤師会70周年祝賀会	239,000	会場費:機材貸出・会場使用料 50,000円 講師料(会員):10,000円 記念誌印刷(200部):150,000円 表彰者花束代:3,000円 交通費:会場下見 1,000円×3回×5人、講師交通費1,000円 役務費:広報 10,000円
4	継続	会員交流WG	1回	新任薬剤師等交流会	45,500	消耗品費:資料作成3,000円、単位申請2,500円 諸謝金:講演料、座長日当 35,000円 交通費:講師旅費5,000円
5	継続	会員交流WG	各1回	会員交流イベント、中堅薬剤師交流会	45,000	諸謝金:講師謝金 30,000円 交通費:講師旅費 5,000円 消耗品:広報・資料作成 10,000円
6	継続	領域別支援WG	2回	領域別薬剤師カンファレンス合同研修会、 薬剤師力向上講座	275,000	消耗品費:単位申請3,500円×2回=7,000円、資料作成:3,000円 諸謝金:講演料10,000円×12回=120,000円 諸謝金:講演料5,000円×11回=55,000円 交通費:講師旅費10,000円×9回=90,000円
7	継続	調査研究WG	1回	会員からの学会発表等に関する相談応需 製薬企業からの研究および調査に関する相談応需	45,800	消耗品費:単位申請5,800円(PECS3300円+JSHP2500円)×1回 =5,800円 資料作成:5,000円 諸謝金:講演料35,000円×1回=35,000円
8	継続	調査研究WG	1回	病院薬剤師充足調査の実施 各WG活動等を検証するための調査の提案	20,000	消耗品費:調査資料作成 10,000円 倫理審査費:10,000円
9	継続	表彰WG	令和8年5月17日	表彰募集・審査会・表彰式	10,000	消耗品費:賞状作成10,000円
10	継続	業務推進WG	調査1回	タスクシフト・シェア及びPBPMの事例収集・共有	32,000	資料作成・調査費:10,000円 報告会等講師日当(会員):10,000円×2人=20,000円 交通費:講師旅費1,000円×12回×2名=2,000円
11	継続	人財確保WG	令和8年9月6日	病院ふれあいフェスタ2026	864,000	消耗品費:資料作成30,000円 学生用弁当代:164,000円 会場費:エプロ機280,000円 通信運搬費:案内送付:10,000円 諸謝金:講演料20,000円 交通費:講師旅費10,000円 業務委託費:350,000円
12	継続	人財確保WG	3回(6月、7月、8月)	病院就活応援WEBセミナー	123,000	通信運搬費:案内送付:30,000円 ライン広報:5500円/月×6か月=33,000円 諸謝金:講演料20,000円×3回=60,000円
13	継続	人財確保WG	随時	薬学実務実習「舞鶴プログラム」実施支援	70,000	通信運搬費:案内送付:20,000円 資料印刷費=50,000円
14	継続	連携支援WG	3回	連携支援研修会の開催等	28,800	消耗品費:単位申請5,800円(PECS3300円+JSHP2500円)×1回 =5,800円 資料作成:5,000円 諸謝金:講演料5,000円×3人×1回=15,000円 交通費:講師旅費1,000円×3人×1回=3,000円
15	継続	精神療養中小WG	令和8年5月28日 令和8年10月4日 令和9年2月頃	慢性期研修会 褥瘡実地研修会 精神科セミナー	140,400	消耗品費:単位申請5,800円(PECS3300円+JSHP2500円)×3回 =17,400円 資料作成:3,000円 諸謝金:講演料30,000円×3回=90,000円 交通費:講師旅費10,000円×3回=30,000円
16	継続	精神療養中小WG	3回程度 1回	精神・療養・中小病診交流会、診療所薬剤師交流会 老健施設アンケート	23,000	消耗品費:資料作成1,000円×3回=3,000円 諸謝金:講演料10,000円×1回=10,000円 交通費:講師旅費10,000円×1回=10,000円
17	継続	9WG	各WG毎WEB開催	病診部会 9WG 会議(管理職、表彰、領域別支援、調査研究:2回 その他WG:4回 程度)	451,200	管理職等交流WG(7名) 22,400円 表彰WG(3名) 9,600円 領域別支援WG(25名) 80,000円 連携支援WG(12名) 76,800円 精神療養中小WG(10名) 64,000円 会員交流WG(9名) 57,600円 業務推進WG(11名) 70,400円 人財確保WG(84名) 51,200円 調査研究WG(6名) 19,200円
小計(WG活動費分。1,000円未満切り上げ。)					2,693,000	

病診部会費(WG活動費除く)	839,000
病診部会 WG活動費	2,693,000
予算総合計	3,532,000

令和8年5月17日現在

病院診療所薬剤師部会役員名簿	役職	氏名	施設名
	部会長	三浦 誠	医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院
副部会長	友金 幹視	山城総合医療センター	
	長谷川 晃司	京都中部総合医療センター	
	土谷 有美	京都第一赤十字病院	
	池見 泰明	京都大学医学部附属病院	
評議員 WG統括	黄前 尚樹	医療法人社団洛和会 洛和会学術支援センター	
	小野 勝	地方独立行政法人 京都市立病院機構 京都市立病院	
	小阪 直史	京都府立医科大学附属病院	
	須田 慈子	医療法人徳州会 六地藏総合病院	
	辻本 千代美	医療法人福知会 もみじヶ丘病院	
	林 明仁	社会福祉法人恩賜財団 京都済生会病院	
評議員	足垣 亮介	市立福知山市民病院	
	糸島 恵	医療法人財団康生会 武田病院	
	岩根 裕紀	社会福祉法人京都社会事業財団 京都桂病院	
	大林 巧志	京都第一赤十字病院	
	佐藤 和生	一般財団法人日本バプテスト連盟医療団日本バプテスト病院	
	瀧 紹代	(独) 地域医療機能推進機構 京都鞍馬口医療センター	
	竹田 和也	国家公務員共済組合連合会 舞鶴共済病院	
	土淵 尚也	京都府立医科大学附属北部医療センター	
	仁丹 裕子	亀岡市立病院	
	野口 裕介	京都第二赤十字病院	
	橋元 誠	医療法人社団志高会 三菱京都病院	
	樋口 眞宏	一般社団法人 愛生会山科病院	
	森本 和雄	社会福祉法人京都社会事業財団 京都からすま病院	
	吉村 光弘	医療法人社団石鷗会 京都田辺中央病院	
	和田 昭	京丹後市立久美浜病院	
顧問	川勝 一雄	医療法人稲門会 いわくら病院	
	四方 敬介	京都薬科大学	
	寺田 智祐	京都大学医学部附属病院	

WG名	役職	会員名	施設名
管理職等交流WG	統轄	林 明仁	社会福祉法人恩賜財団 京都済生会病院
	担当副部長	土谷 有美	京都第一赤十字病院
	評議員	岩根 裕紀	社会福祉法人京都社会事業財団 京都桂病院
		瀧 紹代	(独) 地域医療機能推進機構 京都鞍馬口医療センター
		佐藤 和生	一般財団法人日本パプテスト連盟医療団日本パプテスト病院
表彰WG	統轄	樋口 真宏	一般社団法人 愛生会山科病院
	担当副部長	小阪 直史	京都府立医科大学附属病院
	顧問	土谷 有美	京都第一赤十字病院
人財確保WG	統轄	川勝 一雄	医療法人稲門会 いわくら病院
	担当副部長	黄前 尚樹	洛和会学術支援センター
	評議員	長谷川 晃司	京都中部総合医療センター
		足垣 亮介	市立福知山市民病院
		竹田 和也	舞鶴共済病院
		仁丹 裕子	亀岡市立病院
	顧問	橋元 誠	三菱京都病院
和田 昭		京丹後市立久美浜病院	
調査研究WG	統轄	四方 敬介	京都薬科大学
	評議員	長谷川 晃司	京都中部総合医療センター
		足垣 亮介	市立福知山市民病院
		小阪 直史	京都府立医科大学附属病院
		辻本 千代美	医療法人福知会 もみじヶ丘病院
連携支援WG	評議員	野口 裕介	京都第二赤十字病院
		和田 昭	舞鶴共済病院
	委員	友金 幹規	京都山城総合医療センター
		岩根 裕紀	社会福祉法人京都社会事業財団 京都桂病院
		小野 勝	独立行政法人京都市立病院機構 京都市立病院
		板倉 祥嗣	京都第一赤十字病院
		加藤 良隆	京都第二赤十字病院
		楠川 侑吾	地方独立行政法人 京都市立病院機構 京都市立病院
		吉田 優子	京都大学医学部附属病院薬剤部
		田淵 祐輔	京都府立医科大学附属病院
段林 正明	社会福祉法人京都社会事業財団 京都桂病院		
塚原 優太	国立病院機構 京都医療センター		
業務推進WG	統轄	伴 具也	医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院
	副部長	東 碧	京都中部総合医療センター
	評議員	小野 勝	独立行政法人京都市立病院機構 京都市立病院
		池見 泰明	京都大学医学部附属病院
	委員	大林 巧志	京都第一赤十字病院
		竹田 和也	舞鶴共済病院
		岩内 大佑	医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院
		大坪 達弥	京都第二赤十字病院
		金森 政典	京丹後市立弥栄病院
		芝田 雄登	京都府立医科大学附属病院
精神療養中小WG	評議員	多留木 崇志	地方独立行政法人 京都市立病院機構 京都市立病院
		林 良壮	三菱京都病院
		堀内 望	社会福祉法人京都社会事業財団 京都桂病院
	委員	辻本 千代美	医療法人福知会 もみじヶ丘病院
須田 慈子		医療法人徳洲会 六地藏総合病院	
友沢 明德		医療法人同仁会 (社団) 京都九条病院	
樋口 真宏		一般社団法人 愛生会山科病院	
三浦 恭子		公益社団法人京都保健会 九条診療所	
垣内 淑子		医療法人長安会 中村病院	
会員交流WG	評議員	多胡 和樹	医療法人社団洛和会 洛和会音羽リハビリテーション病院
		東原 和美	(一財) 日本パプテスト連盟医療団 パプテスト老人保健施設
	委員	南田 祐子	医療法人社団聖会 八幡中央病院
		須田 慈子	医療法人徳洲会 六地藏総合病院
		土淵 尚也	京都府立医科大学附属北部医療センター
		仁丹 裕子	亀岡市立病院
		大林 巧志	京都第一赤十字病院
領域別支援WG	統轄	岡田 悠子	医療法人社団洛和会 洛和会音羽記念病院
	担当副部長	清水 大生	京都府立医科大学附属病院
	評議員	長谷川 広樹	医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院
領域別支援WGグループリーダー	統轄	牧野 洗太郎	京都府立医科大学附属病院
		四方 友也	綾都市立病院
	担当副部長	三浦 誠	医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院
	評議員	池見 泰明	京都大学医学部附属病院
		野口 裕介	京都第二赤十字病院
		大森 清孝	医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院
		長谷川 広樹	医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院
		瀬下 貴大	京都第二赤十字病院
		大坪 達弥	京都第二赤十字病院
		眞部 実徳	医療法人啓信会 京都きづ川病院
		川田 将義	京都大学医学部附属病院
		弓木 菜里	医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院
		福田 奮士	京都第二赤十字病院
		岡田 悠子	医療法人社団洛和会 洛和会音羽記念病院
		小川 恭平	京都府立医科大学附属病院
		楠川 侑吾	地方独立行政法人 京都市立病院機構 京都市立病院
		東原 和美	(一財) 日本パプテスト連盟医療団 パプテスト老人保健施設
		松田 裕也	京都大学医学部附属病院
		岩内 大佑	医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院
		三松 史野	地方独立行政法人 京都市立病院機構 京都市立病院
		田淵 祐輔	京都府立医科大学附属病院
		芝田 雄登	京都府立医科大学附属病院
		山際 岳朗	京都大学医学部附属病院
菱田 啓介		医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院	
加藤 良隆	京都第二赤十字病院		
川島 裕明	京都第二赤十字病院		
柏原 陽平	京都第一赤十字病院		
松田 貴臣	医療法人財団康生会 武田病院		